ノナリ唯最近日本カ支那ノ内政問題ニ干渉（influence is being exerted）ストノ疑念ヲ强カラシムルカ如キ事件ノ發生ハ其ノ當否ノ如何ヲ問ハス日本ノ爲ニ不幸ニシテ右ハ日本ノ威信ノ爲ニモ亦列國トノ友好關係ヨリモ採ラサル所ナリ云々ト言フニアリタリ

次テ[3]埃及關係ニ付テハ過日「ホ」カ「ギルドホール」ニテ爲シタル演説カ埃及人側ノ誤解ヲ惹起シタルコトヲ遺憾トスルト共ニ埃及側ノ要望ニ對シテハ自分トシテモ多大ノ同情ヲ持ツモノナリトノ釋明的所見ヲ述ヘ又對伊制裁ニ付テハ「ダ」カ現政府ノ制裁實施措置カ緩慢ナルコトヲ攻撃シタルニ對シ「ホ」ハ右攻撃ハ聯盟ノ一員トシテノ英國ノ行動ヲ誤解スルモノニシテ聯盟ノ基礎ハ飽迄協同動作タルヘク單獨行動ハ聯盟自身ノ爲ニモ却テ有害ニシテ吾人ハ既ニ主義上決定セラレタル制裁ノ實施ヲ躊躇スルモノニアラス又壽府ニ於ケル委員會開催延期ハ對伊態度ノ軟化ヲ意味スルモノニアラスシテ何トカ平和的解決ヲ得セシメン爲ノ一層ノ努力ニ外ナラス將又吾人ハ伊太利ニ對シテハ飽迄友好的關係ヲ保持スルモノニシテ英國ハ佛伊關係ヲ惡化セント試ミツツアルモノナリトノ疑念ノ如キハ何等ノ根據ナキ所ナリトノ趣旨ヲ以テ一方英伊ノ關係ヲ考慮シツツ他方石油其ノ他ノ制裁手段ノ實施ニハ關係國ト共ニ歩ヲ一ニスヘシトノ態度ヲ明カニスル所アリ其ノ他前記「アトリー」ノ質問ニ對スル答辯トシテ世界資源ノ分配問題ハ政治乃至領土問題トハ別個ニシテ純然タル經濟問題而モ買フコトノ問題ニアラスシテ賣ルコトノ問題ナリトシ又空軍縮少問題ハ伊「エ」紛爭最中ノ今日直ニ取上クルコト困難ナリトノ趣旨ヲ答辯シタリ

尙同日聯盟事務大臣「イーデン」モ制裁問題ニ關シ今次制裁ハ關係國愼重考慮ノ結果ニシテ右ハ素ヨリ關係國トシテ享クル所ノ打擊大ナルモ尙五十ノ各國カ夫々其ノ責任ヲ引受ケントスル所以ハ世界ノ秩序維持ニ熱心ナルカ爲ナリトノ趣旨ヲ述フル所アリタリ

在歐各大使、米ニ暗送セリ

**＊事項編注**

昭和十年の海軍軍縮問題をめぐる日英間関係文書については既刊『日本外交文書　一九三五年ロンドン海軍会議』を併せて参照。





## 3　日ソ外交関係（含　第七回コミンテルン大会）

**180**　昭和10年1月25日　広田外務大臣より在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛（電報）

### 北樺太石油会社による試掘権延長問題に関しソ連側当局と適宜交渉方訓令

本省　1月25日後8時発

第一二號

北樺太石油會社ニテハ試掘期限延長ニ付「ソ」側ヨリ一應不同意ノ旨回答アリシ爲貴官ヲ煩ハシテ更ニ「ソ」側ニ申入ルルコトトナリ一方事業當面ノ必要上十年度計畫事業ノ完了確保ニ付交渉方小宅宛訓電セルカ貴官ハ「ソ」側當局ニ對シ試掘期限延長方ニ付適宜交渉セラルルト同時ニ右トハ別ニ十年度計畫事業ハ千九百三十六年十二月後モ其ノ完了作業ヲ繼續シ得可キモノナリトノ會社ノ主張ヲ支持シ「ソ」側ノ同意ヲ取付クル様御盡力相成度シ

**181**　昭和10年1月25日　在アフガニスタン北田（正元）公使より広田外務大臣宛（電報）

### 経済、司法、宗教等各方面に関するソ連国内住民の不満が高まりつつあり同国は日本との戦争を極力回避したい意向との情報について

カブール　1月25日後発
本省　1月26日前着

第一〇號（極秘）

當國總理及外務大臣ノ談話ニ依レバ（他ノ當地情報モ一致ス）目下蘇聯ノ主トシテ工業方面ノ計畫ハ相當進捗シ國力ハ充實シ居ルモ歐露其ノ他ノ窮状ハ頗ル甚タシク「トルキスタン」人民ハ辛クモ食ヲ得ル點ニ於テ他地方ニ優ルモ農民商人智識階級ノ不滿ハ充滿シ同教共和國自治區ノ軍隊警察政治行政ニハ住民參加セス露本國人其ノ他異人種當リ居ルモ内部ニハ軋轢アリ經濟問題以外司法宗教等各種問題ニ付全回教徒ハ壓制ヲ受ケ形勢險惡ニテ各地方共一般ニ戰爭又ハ大事變ノ起ルヲ待チ居ル狀勢ナリ蘇聯本部内ニモ不純分子アリ某々要人ハ日獨兩國ヲ恐レ殊ニ日本トノ戰爭ハ極力回避ノ方針ニテ十年位ハ隱忍ヲ要スト當國大使ニ語リタルコトアリ當國及印度ニ對

シテモ現在全ク消極態度ニ出テ居ル趣ナリ

## 182　昭和10年1月27日　在ソ連邦酒勾臨時代理大使より広田外務大臣宛(電報)

### 外務人民委員代理に対し我が方朝野が試掘権延長問題を重要視している旨を説明の上外務当局の好意的斡旋を要望について

モスクワ　1月27日後発
本　　省　1月28日前着

第三五號

貴[(1)]電第一二號ニ關シ

二十六日「ストモニヤコフ」ヲ往訪（「ス」ハ約二週間病氣引籠リ中ナリキ）豫テ小宅代表ト協議ノ上用意シ置ケル試掘期限延長問題ノ經緯並ニ外務部ノ好意的斡旋ヲ要望スル旨ヲ記述セル「メモ」ヲ手交シ適宜説明ヲ加ヘタル處先方ハ本件ニ付テハ豫テ承知スル處アルモ最近ニ於ケル成行及關係官廳間ノ話合カ如何ニ運ヒ居ルヤヲ知ラサルニ付篤ト調査ノ上回答スヘシト答ヘタリ次テ本官ヨリ蘇側トシテハ對日親善關係ヲ念トスヘキモノト信スト前置シ日本ノ朝野ハ北京條約所定ノ利權ヲ北洋漁業ト共ニ我カ國民的權利トシテ重要視シ石油利權ニ付テハ燃料問題モアル爲我カ海軍ノミナラス政界、財界ノ有力者カ關係ヲ有シ本件試掘期限延長問題ハ會社ノ事業經營上重大關係アル爲關係者ハ蘇側ノ態度ニ付多大ノ關心ヲ有スル次第ニテ曩ニ「モロトフ」カ其ノ演説中日本ノ利權事業ニ對シ蘇側ハ好意的態度ヲ示シ居ル旨ヲ述ヘ又利權本部カ小宅代表ニ對シ具體的計畫ノ提示ヲ求メ本件ニ付詮議ノ意嚮ヲ示シタルコトノ如キ我カ朝野ノ好感ヲ招ケル處

今[(2)]回ノ回答ハ吾人ヲ大イニ失望セシメタリト述ヘ北鐵交渉成立セハ日本ノ對蘇感情カ好轉ヲ見ルヘキモ日本内ニハ尚反蘇感情ヲ有スル數團ノ勢力カ存在シ居ル點ヲ略述シ兩國關係改善ノ爲ニハ是等勢力ノ主張ヲモ考慮ニ入ルル必要アリトテ本件ニ對スル蘇側今後ノ措置カ我カ朝野ノ對蘇感情ヲ左右スル一大原因ナル所以ヲ説キ例ヘハ客年度漁業ニ對スル蘇側ノ態度カ如何ニ我カ國論ニ影響セシヤハ臨時議會ニ於ケル廣田外務大臣ノ演説ニ依リテモ察知セラルヘシト附言シ蘇側ニ於テ外交的見地ヨリ篤ト考究ノ上回答方要望セシニ先方ハ日本ニ於ケル反蘇分子ニ關スル點ハ大イニ興





味アルニ依リ追テ適當ノ機會ニ懇談ヲ試ミ度キ處貴官本日ノ所言ハ此ノ際充分之ヲ考慮ノ上利權問題ノ件ニ付大イニ考究スヘシ外務部トシテハ勿論好意ヲ有スルモ本件解決ハ外務部ノミニテ之ヲ行ヒ得サルニ付各方面ト協議ノ上速ニ回答方取計フヘシト答ヘタリ

尚貴電後段十年度計畫事業ノ件ハ右會見ニ於テ言及セス爲念

## 183　昭和10年1月29日　在ソ連邦酒勾臨時代理大使より広田外務大臣宛(電報)

### 対ソ戦争を公言する分子が日本に存在することを批判した第七回ソヴィエト大会におけるモロトフの演説について

モスクワ　1月29日後発
本　　省　1月30日前着

第四〇號

二[(1)]十八日第七回「ソヴエット」大會開會「モロトフ」ヨリ第六回大會（一九三一年）以來ノ内外施政經過ニ付長時間ノ報告アリタルカ外交ニ關スル部分ハ重點ヲ對日獨關係ニ置キ獨「ラトヴィア」ニ最モ強ク當ルト共ニ土耳古トノ親善ヲ殊ノ外強調（傍聽席ニ在リタル土耳古大使ニ對シ滿場起立拍手ヲ送レリ）シタルカ佛國トノ關係ニ付餘リ述ヘサリシハ稍意外ノ感ヲ與ヘタル模樣ナリ「モロトフ」ノ演説中對本邦及支那ニ關スル部分ノ要領左ノ通

日本ハ滿洲ヲ占領シ支那ニ於テ我カ物顔ニ振舞ヒ居レルカ同國ノ或ル有力ナル分子ハ久シキ以前ヨリ公然ト對蘇戰爭ヲ云々シ居レリ蘇聯カ同國ト未タニ不侵略條約ヲ締結スルニ成功セサルハ蘇聯ノ罪ニ非サルナリ過去四年間吾人ハ對日關係ニ於テ忍耐ト讓歩的態度ヲ持シ平和ヲ念トスル見地ヨリ兩國關係ヲ惡化スル原因ヲ除クニ努メ經濟方面ニ於テモ漁業及利權ヲ同樣ノ精神ヲ以テ處理シ來レリ

吾[(2)]人ハ紛爭ノ原因ヲ除ク爲東支ノ賣却ヲ日滿兩國ヘ提議シ該交渉ニ際シ讓歩的態度ヲ執リ以テ相手側ヲシテ到底受諾シ得サル當初ノ提議ヲ撤回セシメタルカ交渉ハ近ク完了スルモノト信ス斯テ吾人ハ日蘇關係ノ改善並ニ極東平和ノ保障ニ對スル我カ努力カ積極的結果ヲ齎サンコトヲ期待スルモノナルカ日本ノ侵略分子ハ鉾ヲ納メス日本ニ於テハ依然對蘇戰爭公言セラレ今日ニ至ルモ此ノ種反蘇運動ノ鎭靜ス

ヘキ兆候見ヘス其ノ或者ハ啻ニ東支ノ奪取ノミナラス我カ極東就中沿海州ノ奪取モ考ヘ居レリ此ノ事態ハ日本カ往年列國ノ西比利亞干渉當時最後ニ西比利亞ヲ引揚ケタル國ナルニ鑑ミ無關心ナル能ハサル所ナリ是等ハ總テ我對日政策ヲ決定セシメ吾人カ極東ニ必要ナル國防施設ヲ施シタル所以ナルモ是等施設ハ平和ヲ目的トスルモノナリト日本ノ平和分子ニ確言スルコトヲ得

蘇聯ハ一九二八年ニ斷絶セル支那トノ國交ヲ回復シタルカ同國ハ蘇聯ト正常關係ヲ保ツノ有利ナルヲ認メタル模様ナリ茲ニ一言シタキハ新疆ノ「ソヴエット」化ニ關スル陰險ナル風説ニシテ日本ニ殊ニ流布セラレ居レルカ吾人ハ支那全土（素ヨリ新疆ヲ含ム）ノ保全ヲ尊重セントスルモノナルコトヲ宣言スルノ必要ヲ認ム

**184** 昭和10年2月1日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

**極東における軍備充実振りを明らかにした第七回ソヴィエト大会における国防人民委員代理の演説について**

モスクワ 2月1日後発
本 省 2月2日前着

第四二號

三十日ノ「ソヴエット」大會ニ於テ國防人民委員代理 Tohachefsky ハ往電第四〇號「モロトフ」ノ一般施政報告演説中赤軍ノ充實擴張カ多大ノ支出ヲ要セルヲ述ヘタル點ヲ補足敷衍シタルカ其ノ極東方面ニ關スル部分ノ大要左ノ通

極東及東部西比利亞ニ於ケル要塞地域ニ於ケル築造及武裝ハ大部分一九三四年ニ於テ完了シタリ吾人ハ蘇領就中沿海州ヲ不意ニ奪取スヘク汲々準備中ナル帝國主義者ノ野望ニ鑑ミ要塞地域守備隊ノ設置問題ニ愼重ノ考慮ヲ拂ヒ多數ノ守備隊ヲ編制配置スルト共ニ兵營及必要缺クヘカラサル文化施設ヲ確保シタルカ要塞ハ屢々無人不毛ノ地ニ築造セサルヘカラサリシト廣大ナル地域ニ亘リタルトノ爲兵員ノ增加ト巨額ノ出費ヲ要シタリ次ニ同樣多大ノ盡力ト出費トヲ以テ極東其ノ他ノ地方ニ幾多ノ沿岸防備地點ヲ完成シ又特ニ極東ニ航空「タンク」及砲兵ノ多數獨立部隊ヲ配置シ多大ノ困難ニ逢着シツツ幾多ノ新兵營ヲ建設シ極メテ複雜





ナル經濟設備ヲ施シタリ是等新規ノ國防施設ノ爲從來六十萬ヲ出テサリシ赤軍ハ三四年ニ九十四萬ニ增加シ從テ同年度ノ軍事費ハ豫算十六億六千五百萬留ヲ大超過シ五十億留ニ達シタリ因ニ三五年度ノ國防人民委員部關係支出豫算ハ六十五億留（但シ國家總豫算ノ一〇％）ナリ

**185** 昭和10年2月4日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

**日本側が試掘権延長問題に関する詮議を急ぐ事情につき外務人民委員代理より照会について**

モスクワ 2月4日後発
本 省 2月5日前着

第四七號

往電第三五號ニ關シ

三日求メニ應シ「スタモニアコフ」ヲ往訪セル處「スタモニアコフ」ハ利權本部並ニ關係各方面ト協議セルニ何レモ此ノ際詮議スルヲ時期尙早ナリト考ヘ居レリ故ニ此ノ上ハ閣議ノ審議ニ附シ決スルノ外無シ就テハ日本側カ本件詮議ヲ急カルル事情ニ關シ今少シ詳細ニ承知シ置キタシト述ヘタルニ依リ本官ハ試掘作業ノ困難ニシテ巨費ヲ要スルコト會社ノ事業計畫上本春迄ニ本件詮議ヲ要望スル次第ヲ縷述シタル上尙爲念是等ノ事情ヲ明カニシタル「メモ」ヲ差上クルコトトスヘキニ依リ日本側ノ要望達成ニ付此ノ上トモ盡力アリタキ旨希望セルニ「スタモニアコフ」ハ右資料ヲ閲覽ノ上更ニ考究スルコトト致度シト答ヘタリ

尙右資料ハ小宅代表ト協議ノ上今明日中ニ先方ヘ送付ノ筈

**186** 昭和10年2月16日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛

**日本側が試掘権延長問題に関する詮議を急ぐ事情を明らかにする資料を外務人民委員代理に手交について**

機密公第五五號 （3月11日接受）

昭和十年二月十六日

在「ソヴイエト」聯邦
臨時代理大使 酒勾 秀一［印］

外務大臣 廣田 弘毅殿

北樺太石油利權試掘期限延長問題ニ關スル件

本件ニ關シ最近「ストモニヤコフ」外務人民委員代理ヘ申入レノ次第ハ及電報置タル處本官ヨリ同代理ニ手交シ置ケル別紙説明資料（露譯ノ分省略）御參考迄送附ス尚本件ニ付御氣付ノ點モアラハ御回示相煩度シ

（別紙）

北樺太石油利權試掘期限延長急速許可方ニ關スル件

北樺太石油株式會社ハ一九三六年十二月十四日ヨリ一九四一年十二月十四日迄向フ五ケ年間試掘期限延長方蘇聯當該官憲ニ出願中ナル處同社カ今日ニ於テ右延長許可ヲ得度シトスルハ大要左記ノ事由ニ依ル

一、會社カ今日ニ於テ試掘延長許可ヲ得ントスル事由ヲ述フルニ先立チ一應同社カ五ケ年試掘延長ヲ切望スル事情ヲ左ニ略述スヘシ

(イ)北樺太東海岸一千平方露里試掘區域ニ於ケル調査試掘期限ハ北京條約及北樺太石油株式會社ト最高經濟會議トノ間ニ締結セラレタル利權契約ニヨリ一九三六年十二月十四日ト定メラレ居レリ然ルニ同會社ノ前記地域ノ調査ハ漸ク一九三四年ニ入リ完了シ又同會社トスルモ現地ノ實狀ハ天然ノ港灣ナク海岸ハ遠淺ニシテ而モ航海可能期間ハ一ケ年ヲ通シ僅々四ケ月ニ過キス又陸上ハ「ツンドラ」ト人跡稀ナル森林地帶ナルヲ以テ前記施設實行ノ爲多大ノ日子ヲ要スル次第ナリ而シテ準備作業ノ後ニ行ハルル坑井試掘作業モ冬季ニ於テ特ニ甚シキ運搬作業困難ノ爲意ノ如ク促進シ得サル實狀ナリ斯クテ企業今日迄ノ實行成績ニ於ケル具體的數字ニ見ルモ試掘ニ於テハ一坑井當リ平均準備作業ニ三百十五日掘鑿作業ニ四百八十三日合計七百九十八日ヲ要シ居レル實狀ニシテ右ノ事實ハ會社企業ニ隣接セル國營企業「サハリン、ネフチ、トレスト」ノ同種作業ニ比較スレハ容易ニ諒解シ得ラルヘシ

(ニ)會社ニ於テハ今後共試掘ニ全力ヲ傾注スヘキヲ以テ前記實績ノ期間ハ更ニ短縮シ得ヘシト見ラルルモ「ソヴイエト」政府トノ協定案ハ從來ノ試掘ニ比シ深度增加サレタルモノアルヲ以テ各試掘井ノ完了ニハ純稼働年數各平均二ケ年以上ヲ要スヘシ

會社ハ試掘井ノ各年度割當ニ關シ出來得ル限リ短期間ニ一千平方露里ノ試掘ヲ完了スヘキコトヲ考慮シ既ニ「ソヴイエト」政府當該機關トノ試掘協定ハ更ニ遲レテ一九三四年九月末ニ成立セリ（別添協定圖解參照）而シテ北樺太現地ニ於ケル航海及建設作業期ハ毎年十月ヲ以テ終ルカ故ニ會社側ニ於テ前記協定實行ノ開始ニ付テハ同航海及建設作業開始以前（一九三五年六月）トナスコトヲ得サル次第ニ付前記試掘協定實行ノ爲會社ノ實際ニ有スル試掘期間ハ僅々十九ケ月ヲ餘スノミナリ從テ會社カ今後最大限度ノ努力ヲ傾注スルトモ所定期間内ニ於テ前記ノ試掘協定ニ定メラレ居レル試掘計畫ヲ遂行スルコト不可能ナリ

(ロ)北樺太現地ニ於ケル試掘作業カ如何ニ困難ナルカハ同會社企業ニ隣接セル蘇側國營企業「サハリン、ネフチ、トレスト」ニ徵シ「ソヴイエト」政府ニ明カナル所ニシテ又「サハリン、ネフチ、トレスト」ニ比較スレハ北樺太石油會社カ常ニ各方面ノ事情ニ於テ更ニ一層困難ナル立場ニ存スルコトモ充分「ソヴイエト」政府ノ諒解セラルル所ナリ

(ハ)試掘準備及試掘作業ノ爲ニハ港灣ノ設備、道路ノ開設、目的地ノ整理、居住及基本的建物ノ建設等ヲ必要決定セラレタル案ニ依レハ毎年度ノ作業坑井數十一乃至十八坑井ニシテ之ニ要スル經費二千萬圓各年度平均所要額約三百萬圓トナリ若シ之ヲ更ニ增加スルニ於テハ採掘鑛區ノ開發ヲ萎縮セシメ延テ企業ノ收益的經營長キニ亘リ不可能ノ結果トナルヘシ尚又右以上ニ各年度ノ試掘規模ヲ擴大スルコトハ蘇聯邦ニ於テモ日本ニ於テモ熟練ナル石油勞働者及技術家カ不足ヲ告ケ居ル事情ニ鑑ミ多大ノ困難アリトス

右等ノ各種事情ヲ考慮シ會社側ニ於テハ別添（見当ラズ）ノ通リ協定試掘計畫案及試掘實行成績表ヲ作成シタルカ右試掘計畫ニ付テハ今後七ケ年ヲ絶對必要トシ從テ試掘期限ヲ少クトモ五ケ年間延期方希望シ居ルモノナリ

二、會社カ今日ニ於テ試掘延長許可ヲ得ントスルハ第一技術上ノ見地ヨリ出ルモノナリ

(イ)會社ノ本年作業開始豫定ノ坑井ハ殘餘期間カ之等坑井ノ完成ヲ保障シ居ラサルヲ以テ今日試掘期限延長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ日本政府ヨリ交付セラルヘキ本年度分ノ試掘助成金ノ交付ヲ受クルコト能ハサル關係上會社ハ現在ノ殘餘期間（十九ケ月）ヲ完全有效ニ利用

スルコトヲ得サルコトトナルモノナリ

(ロ)試掘作業ノ實行開始ニ付テハ先ツ準備作業ヲ組織スル必要アリ卽チ一般的試掘作業準備ニハ海岸設備、通信、交通、道路、居住及技術的建物等ヲ建設セサルヘカラサルカ右建設ニ付テハ其ノ施設ノ規模、種類、形式等ヲ決定スルコト必要ナル處右決定ニ付テハ先決問題トシテ右等ノ準備上ノ建設カ如何ナル期間ニ亘リ之ヲ利用シ得ヘキヤヲ明カニセサルヘカラス卽チ利用期間ヲ決定スルコトニヨリ初メテ準備作業上ノ建設ノ利用ヲ最モ有效ナラシメ得ヘキモノナリ而シテ又試掘期間ノ有效ナル利用ハ準備作業上ノ建設ノ利用期間ノ決定カ早ケレハ早キタケ有效ナルハ勿論ナリ

三、會社カ今日ニ於テ試掘期限延長許可ヲ得ントスルハ第二資金調達ノ見地ヨリ出ツルモノナリ

會社ノ資本金ハ今日迄其ノ殆ント全部ヲ企業建設ニ投下シ盡シ居ルヲ以テ前記試掘計畫ノ實行ニ付テハ新タニ資金ヲ調達セサルヘカラス然ルニ現在試掘期限ハ餘ス所僅カニ十九ケ月ニ過キサルヲ以テ現在ノ狀態ノ下ニ於テハ會社ハ啻ニ日本政府ヨリ助成金ノ交付ヲ受クルコト困難ナルノミナラス新タニ資金ヲ募集スル望ミナキコトハ現在同會社ノ五十圓拂込ノ株劵カ三十圓臺ニ下落シ居ルニ徵スルモ明カナリ

而シテ會社ハ前記試掘計畫ノ實行ヲ以テ會社存立ノ基礎ノ一トナセルニ付會社トシテハ其ノ事業存立上如何ナル困難ヲ排シテモ同計畫ノ實行ヲ完了スル覺悟ヲ有スルモノナリ而シテ右ニ付テハ會社トシテハ必要ナル資金ヲ調達セサルヘカラサルカ資金ノ調達ニ付テハ先ツ所要金額ヲ決定セサルヘカラサル處同金額ノ決定ニ付テハ將來ニ於ケル所要ノ準備費ト試掘費トヲ知ルコト絶對必要ニシテ右準備費ト試掘費トハ試掘期限ノ延長年限ニヨリテ決定スルノ外ナシ換言スレハ現在會社トシテ將來ノ所要資金ヲ調達シ得ヘキヤ否ヤ又日本政府ヨリ助成金ノ交付ヲ受ケ得ヘキヤ否ヤハ前記試掘計畫ヲ實行スル見込アリヤ否ヤ卽チ一ニ試掘期限五ケ年間ノ延長ノ許可ヲ此際得ヘキヤ否ヤニ懸ルモノナリ會社側ニ於テ前記資金調達ノ見込ツカハ現在ノ殘餘ノ期間ヲ完全有效ニ利用シ得ルノミナラス實ニ前記試掘計畫ノ實行ヲ確保シ得ル次第ナルヲ以テ會社トシテハ現在試掘期限延長問題ノ解決





ヲ一日モ遅延スルコトヲ得サル焦眉ノ問題ト爲シ居ル所以ナリ

## 187

昭和10年4月7日　在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

### 試掘権延長問題につき日本側の要望を実質的に認めたソ連政府の決定について

モスクワ　4月7日後発
本　　省　4月8日前着

第一三三號

往電第九五號ニ關シ

七日極東部長代理ヲ往訪ノ際本件成行ヲ尋ネタル處(「ストモニヤコフ」ハ客月末ヨリ休暇旅行中)先方ハ五日政府ニ於テ「ポジチブ」ノ決定ヲナセルカ其ノ詳細ハ利權本部ヨリ小宅代表ニ傳達スル筈ナリト答ヘタリ小宅ハ七日求メニ依リ利權本部ニ出頭セル處同本部長ハ政府ノ決定トシテ一、所定ノ試掘期間内ニ掘鑿作業ニ着手セル試掘井ニ付テハ之レカ完成迄期間ヲ延長スルコトヲ承認ス二、試掘期間五ケ年延長ノ件ハ會社カ右一、ヲ實行セル經過ヲ見テ更ニ詮議スヘシトノ趣旨ヲ告ケ右ニテ日本側ノ要望ハ實質的ニ達成セラレタルモノト認ムト語リ尙明八日右ニ付誤解ナキ様文書ヲ以テ回答スヘシト附言セル趣ナリ右文書回答ハ接到次第小宅ヨリ會社宛電報ノ筈

本電中里社長ヘ傳ヘラレ度尙本件發表振ニ付テハ小宅ヨリ同社長ヘ追テ請訓スル趣ニ付右御含置ヲ請フ

## 188

昭和10年4月19日　広田外務大臣
在本邦ユレネフソ連邦大使　会談

### 北満鉄道問題、欧州政局および漁業問題等に関する会談

**付記一**　十二月付欧亜局第一課編

「昭和九年十二月乃至昭和十年一月東郷外務省欧亜局長、「カズロフスキー」委員間交渉」

**二**　十二月付欧亜局第一課編

「昭和十年二月乃至三月ニ於ケル未解決問題ニ關スル西外務書記官「カズロフスキー」委員間折衝、北鐵讓受協定案文起草委員會ニヨル條文作成竝協定署名」

## 三　十二月付欧亜局第一課編「第六十七議會ニ於ケル北鐵讓受協定成立ニ關スル廣田外務大臣ノ報告演說」

昭和一〇、四、一九

廣田大臣**ユレネフ**大使會談要錄

四月十九日**ユレネフ**大使カ廣田大臣ヲ來訪シタル用向ハ同大使カ今回大阪商工會議所ヨリ招待ヲ受ケタル機會ニ來月一日ヨリ七日迄阪神地方名古屋等日本ノ商工業ノ中心地方ノ視察旅行ニ赴クニ付便宜供與方請求スルニアリタルモ余談トシテ刻下ノ歐洲政局ニ觸レタル點及大臣ヨリ漁業問題ノ我方原則ヲ說明セル點アルニ付要領ヲ記錄ニトトム

**ユ**大使ヨリ阪神地方ヘノ旅行ノ目的ノ一ハ北鐵問題解決ヲ楔機トシテ日**ソ**經濟上ノ接觸ヲ密接ニスルニアリト述ヘタルニ依リ大臣ハ北鐵協定ノ關係ヨリ今後三ケ年ハ兩國間ノ貿易モ相當ノ額ニ上ルヘキカ更ニ夫レヲ離レテモ將來發展ヲ見ルコトヲ得ハ結構ナリ貴國ハ最近獨逸ト二億馬克ノ**クレヂット**供與ニ關スル協定ヲ締結シタリト聞クト述ヘタルニ

大使ハ北鐵協定ノ履行ハ**ソ**聯邦ヲ日本ノ市場ニ接近セシメ將來トモ日本ノ市場ヲ利用スル可能ヲ與ヘ兩國ノ貿易ハ益々盛ニナルコトト思考ス獨逸トノ契約ニ付テ云ヘハ政治ニ於テ憎惡又ハ友愛ノ念ニトラハルルコトハ禁物ナリ**ソ**政府カ獨逸反對ノ政策ヲ採ルニ至リタルハ**ヒトラー**カ軍備ヲ盛ニシ隣國ヲ脅威スルカ如キ政策ヲ採ルニ至リタル結果ナルモ**ソ**聯邦トシテハ經濟上獨逸ヲ**ボイコット**スルカ如キ考ナク**ヒトラー**カ政策ヲ變更スレハ**ソ**聯邦モ政治上ノ政策ヲ變更スヘシト述ヘタリ

次ニ大臣ヨリ**ソ**聯邦ノ國際的地位ハ極メテ自由ニシテ其ノ外交モ中心人物ノ考決定シ居ル爲自由ニ手腕ヲ振フコトヲ得現ニ今回佛國及**チエッコ**トハ軍事同盟ヲ締結シ他方獨逸トハ前述ノ如キ經濟協定ヲ締結シタル等恰モ歐洲ヲ手玉ニトルカ如クニ觀ラルト述ヘタルニ

大使ハ佛國及**チエッコ**ト締結セルハ普通ノ意味ニ於ケル軍事同盟ニ非スシテ相互援助ヲ約セルモノニシテ第三國ニ對スル軍事同盟ニハ非ス所謂相互援助及協議條約ナリ各國カ相互ニ斯ル條約ヲ締結スルコトトセハ平和ノ維持ニ資スル所大ナルヘシ**ヒトラー**ヨリ此ノ種條約ノ提議アラハ**ソ**聯邦ハ之ニ應シ獨逸トモ締結スヘシ波蘭ハ稍事態ヲ諒解シ初メタリト云ヘリ

大臣　自分ハ實ハ佛國及**チエッコ**ト貴國トノ間ニハ軍事同盟カ成立セルモノト思考セリ斯ル事ハ戰爭ヲ眼中ニ設キテノコトナルヘキヲ以テ歐洲ノ事態ハ中々容易ナラヌコトナリト感セラレタリ波蘭カ最初理事會ニ於テ獨逸問責ノ決議案ニ反對シ乍ラ投票ノ際ニハ決議案ニ贊成シタルハ如何ナル故ナルヤ

大使　佛國及**チエッコ**トノ協定ハ從來ノ如キ軍事同盟ニ非ス締約國カ第三國ヨリ攻擊ヲ受ケタル際互ニ援助ヲ約シタル迄ノコトナリ自分ハ波蘭ニ付テハ嘗テ貴大臣トノ會談ニ於テ最後ノ瞬間ニハ同國ハ佛國ト行動ヲ共ニスヘシト云ヒタルコトアルカ果シテ今回佛國ト手ヲトリテ決議案ニ投票セリ然シ波蘭ノ政策ハ失敗ナリ如何トナレハ理事會ニ於ケル**ベック**外相ノ問責反對演說ハ佛國ノ不滿ヲ買ヒ他方決議案贊成ノ投票ハ獨逸ヲシテ憤慨セシメタレハナリ**ソ**聯邦トシテハ波蘭カ公正ナル道ヲトリタルコトヲ喜フモノナリ

大臣　蓋シ波蘭トシテハ建國ノ事情ヨリ從來ノ通リノ筋道ヲ辿ルコトトナリタルモノト思フ同國ハ一方**ソ**聯邦ト不侵略條約ヲ締結シ他方獨逸トモ不侵略條約ヲ締結スル等**ソ**獨ノ間ニ介在シ地方的安全ヲ求メントシタルモノト思ハル

大使　**ソ**聯邦トシテハ領土ヲ欲セス從テ波蘭トシテ**ソ**聯邦ヲ危惧スル必要ナシ**ソ**波不侵略條約ハ兩國間ノ相互信賴ヲ增進スルニ效果アリ又獨波間ノ**パクト**ニシテ何等匿レタル特殊ノ取極ナキモノナランニハ何等**ソ**聯邦トノ關係ヲ惡化スヘキ筈ナキモ波蘭カ其ノ後東歐**ロカルノ**ニ應セサリシコトハ同國ト佛國トノ關係ヲ惡化セリ獨逸ハ明ニ戰爭ヲ準備シツツアリ波蘭トシテハ必スシモ佛國ノ道具トナル必要ナキモ獨波間ニハ決定的ニ解決ヲ得ルコト能ハサル問題例ヘハ**コリドール**、**ダンチヒ**、**シレジヤ**ノ如キ問題アリ獨逸カ之等ヲ放棄スルト思フハ間違ナリ從テ波蘭カ佛國ト行動ヲ共ニスルハ單ニ佛國ニ對スル友愛ノ問題ノミナラス打算ノ問題ナリ佛國ハ講和會議當時**ロイドジョージ**ノ反對ヲ斥ケ波蘭ノ爲**コリドール**ヲ作リタルモノナルカ波蘭ニシテ佛國初メ小協商**ソ**聯邦等ノ舊友ヲ失ハハ**コリドール**及**ダンチヒ**問題ニ付孤立無援トナルヘシ**ソ**聯邦ノ政策ハ一般平和ノ保持ニシテ獨逸ヲ孤立ニ陷ラシムル政策ニアラス

大臣　歐洲ノ平和カ維持サルレハ結構ナルカ獨逸カ今後如何ナル態度ヲ採ルヤ又獨波關係カ今後如何ナル決着ヲ見ル

ヤハ興味アル問題ナリ英國ハ色々盡力シツツアル樣ナレハ歐洲ノ平和工作ニ乘リ出スモノト思フ

大使　平和維持ノ爲ニハ尙爲スヘキコトアルモ多クノ努力拂ハレタリ英國ハ**ストレーザ**會議及理事會ノ經過ニ見テ明カナル如ク漸次歐大陸ノ事件ニ**インテレスト**ヲ持チ初メタリ波蘭及南米諸國ノ政策ハ英國ノ影響ヲ受クルコト大ナリ波蘭カ結局獨逸問責決議案ニ贊成投票ヲ爲シタルハ佛國ノ態度モアルコト乍ラ英國ノ忠告ニ傾聽セル結果ナラント思ハレル斯ク觀シ來レハ歐洲ノ平和ハ救ヒ得ルヤニ思ハル歐洲ノ平和ハ延テ極東ノ爲ニモ利益ナリ現ニ極東諸國差シ當リ日本ト**ソ**聯邦トノ關係ハ强化シツツアリ

大臣　日**ソ**關係ハ現在ノ如キ空氣ニテ進ムモノト思フモ歐洲ノ平和ニ付テハ疑ナキ能ハス現今歐洲ノ政治家外交家ハ國家間ノ結合ニ依ル平和工作ニ努メ居ルモ之レ果シテ眞ノ友好ナルモノヲ出現シ得ルヤ否ヤ自分ノ考フル所ニ依レハ國際關係ノ惡化ハ多クハ國內事情ニ源ヲ發ス各國民カ夫々生活ノ安定ヲ得經濟上將來ノ希望ヲ有スルコトトナレハ國際關係モ從テ安定スヘキモ現在ノ狀態ニテ推移セハ世界ハ困難ナル經濟的苦痛ヨリ脫却スルヲ得ルヤ否ヤ疑問ナリ各國カ經濟的ニ閉鎖主義ヲ維持シ居ルコトハ非常ナル無理ニシテ國際關係ハ表面安定ヲ呈スルコトアルトモ國內事情ヨリ其ノ安定カ崩ルルコトナラサルカ歐洲平和第一ノ要件ハ之ヲ要スルニ各國カ國內ノ安定ヲ得ルニアリ政治家外交家カ自己ノ理想ノミニテ或ハ戰ヲ目的トシ或ハ之ヲ回避センコトヲ目的トシテ國家間ノ結合ヲ計ルコトハ之レ事ノ實質ニ觸レサル考ニスキス

大使　歐洲ノ事態ニ付テハ自分モ懷疑的ナルモ我等カ歐洲ニ於テ試ツツアルコトハ人類ノ平和ヲ維持スル唯一ノ方法ナリ御說ノ如ク各國トモ困難ナル事態ニアルハ明カナルモ去リトテ戰爭ニ依リテ此ノ困難ヲ解決シ得ルモノトハ思ヘス資本主義國ノ困難ハ國內的ニ解決スルコトトシ他方國家間ノ經濟協力ヲ增進スルコトトセサルヘカラス此ノ方法ハ戰爭ヨリ安價ニツク何人モ戰爭ナシト斷言出來サルモ我々ノ努力シ居ル政策ハ平和ヲ救フ唯一ノ方法ナリ貴大臣ハ嘗テ北鐵協定成立ニ關シ同協定ノ成立ハ外交手段ニ依リ國際間ノ問題ヲ解決シ得ルコトヲ如實ニ示シタルモノナリト云ハレタルカ**ソ**聯邦モ何ントカシテ歐洲ノ平和ヲ外交ヲ以テ維持セント考ヘ居ル次第ナリ平和ノ方カ如何ニ惡シキ平和



ニセヨ戰爭ヨリハマシナリ**ソ**聯邦ハ何人トモ戰爭ヲ欲セス第三國カ獨逸ヲ攻擊シタル場合**ソ**聯邦ハ此ノ第三國ヲ援助スルコトナシ

大臣　歐洲現在ノ困難ハ世界的ニ富カ遍在(ママ)スル結果ニ非サルカ墺國ノ如キ首府**ウイン**ノ人口ト同市ヲ除ク全國ノ人口ト同數ニシテ斯クテハ國家トシテ立チ行クコト可能ナルヤ歐洲ノ世界大戰後ニ於ケル國境ナルモノハ經濟方面ニ考慮ヲ廻ラスコトナク唯**ウイルソン**ノ理想ニ基キテ定メタル結果今日ノ困難ヲ殘シタルニ非サルカ根本ハ經濟問題ナレハ經濟問題ノ解決コソ平和維持ニ最モ肝要ナルコトニ非サルカ日**ソ**關係ニ付云フモ兩國ノ經濟關係ノ調節ヲ計ルコトカ平和維持ノ爲最モ有效ナル方法ニシテ北鐵問題ノ解決ノ如キ之カ適例ナリト信ス

大使　自分ハ**ヴエルサイユ**條約ヲ稱贊スル者ニ非サルモ新ナル戰爭ヲ爲シ新ナル平和條約ヲ結フモ事態ヲ改善スルコト能ハサルモノト思考ス成程墺國ハ困難ナル立場ニアルモ最近同國カ洪國及**チエッコ**トノ關係ヲ調整シタルカ如ク同國トシテ生存シ得ルモノト思フ其ノ他ノ諸國ニ付テモ生存シユケヌ筈ナシ問題ハ戰後大小ノ各國カ競テ產業ヲ興シ其ノ爲障壁ヲ設クル等無政府的不統制經濟ノ結果困難ヲ生スルニ至レリ去リトテ此ノ困難ヲ戰爭ニ依リテ解決スルコト不可能ナレハ百方平和ヲ維持スルコトニ努ムルト共ニ互ニ經濟的協力ニ努メサルヘカラス幸ヒ極東方面ハ万事順調ニシテ經濟問題モ歐洲ニ於ケルモノニ比シ極テ些細ノモノナルニ依リ自分ハ何等心配セス日**ソ**漁業問題モ圓滿ニ解決スルモノト期待ス

大臣　歐洲ノ形勢ニ付經濟的**グループ**ヲ作ルコトモ可ナランカ自由貿易制度ヲ採ルコト最モ可ナリト思考ス**ソ**聯邦ノ如キ世界地表ノ六分ノ一ヲ占メ天然資源ニ富ム大國ハ別トシ資本主義國ハ夫々大ナル困難アルモノト思フ日本ノ如キモ島國ニテ經濟的ニ大ナル苦難ヲ嘗メ來リタルカ滿洲國ノ獨立ニ依リ光明ヲ見ルニ至リタルモ之ヨリ實際ノ利益ヲ得ル迄ニハ尙時ヲ藉ササルヘカラス隣國トシテハ露國支那ノ如キ大國アリ日本ハ其ノ間ニ介在シ自己ノ努力ニ依リ產業ヲ維持シ居ルニ過キス漁業問題ハ日本國民カ魚ヲ常食トスル爲重大問題ナリ此ノ問題ハ適切ナル方法ニ依リ最モ實際的解決ヲ得タシト考ヘ居リ其趣旨ニテ在莫大使館ニ訓令シ置キタルカ根本觀念ニ於テ**ソ**政府ニ於テモ反對ナカランコ

トヲ期待ス

右ニ對シ大使ハ自由貿易主義ハ資本主義全盛時代ノ**クラシック**ナル形式ナルモ現在此ノ主義ニ立チ歸ルコトハ世界的ニ非常ノ動搖ヲ招來スルヲ以テ實行不可能ナリ從テ現在ノ狀態トシテハ軍備ヲ停止シ民衆ノ生活ニ注意ヲ注キ外國トノ關係ニ於テハ割當制度其ノ他協定ノ途ヲ求ムルヨリ外ナシ**ソ**聯邦カ現在困難ナシト云フニ非サルモ比較的安定ノ立場ニアルハ世界地表ノ六分ノ一ヲ占ムルカ爲ニ非スシテ之ハ宣傳ニハ非サルモ社會主義制度ノ結果ナリ今ニ帝政主義カ行ハレタランニハ何等人民ニ希望ヲ與フルコト能ハサリシナラン貴我ノ漁業問題ニ付テハ貴方ヨリ過大ナ要求ナキ限リ圓滿ニ解決スルモノト思考スト述ヘタリ依テ

大臣ハ漁業問題ニ對スル帝國政府ノ根本方針ヲ說明シ原則トシテ現狀維持ニアリ過去三四年間ノ漁業ハ極メテ平穩ニ行ハレタルニ鑑ミ之カ實行ヲ繼續維持スルコトカ最モ適切ニシテ他方北鐵交涉ノ際モ問題トナリタル留換算率ノ如キコトカ將來問題トナラサル樣又魚族ノ保護ヲ計リ永久ニ漁業ヲ行ヒ得ル樣致度シト云フカ我方ノ根本方針ニシテ多ク議論ヲタタカワサシテ妥決ニ到達スルモノト思考ス尤モ漁區整理ノ點ハ實況ニ照シ決定スヘキモノナルモ根本ニ於テ**ソ**側ニ反對ナキモノト期待ス、サスレハ條約ハ必要ナル訂正ヲナシ其ノ儘トナセハ面倒ヲハフキ結構ナリト思考ス

(此ノ時大使ハ訂正モ訂正次第ナリ又漁區ノ整理トハ無競賣安定ヲ意味スルヤト質問ス) 訂正トハ實ニ實行シ居ルコトヲ兩國間ノ取極トシテ規定シ條約ハ其ノ儘繼續スル趣旨ニシテ又漁區ノ整理トハ現ニ經營シ居ル漁區ハ無競賣ニテ經營ヲ繼續セシムルコトトシ新漁區ニ付テハ籤引ニテ日**ソ**双方折半スル趣旨ナリ之ヲ要スルニ万事**シンプリファイ**スル趣旨ナリト述ヘ置キタリ

本日ノ會見ハ午後三時四十分ヨリ六時ニ及ヒタリ

**(付記一)**

昭和九年十二月乃至昭和十年一月東鄕外務省

歐亞局長、「カズロフスキー」委員間交涉

前記昭和九年十二月二十一日ノ廣田大臣「ユレネフ」大使間會談ニ於テ爾後ノ細目ニ付テハ東鄕歐亞局長、「カズロフスキー」委員間ニ於ケル交涉ニ讓ルコトトセラレタルヲ以テ右兩者間ニ昭和九年十二月二十五日ヨリ昭和十年一月





二十九日迄ニ十回ニ亘リ折衝行ハレタルカ其ノ結果左ノ通ニシテ一二技術問題ヲ除ク外全般ニ亘リ交涉成立シタリ

(一)裁判上ノ請求問題

「ソ」側ハ昭和九年十二月二十一日附提案ヲ以テ(イ)一九二四年五月三十一日以降一九三四年十二月二十一日迄(駐、本件ニ關スル「ソ」側案提示ノ日)ノ對北鐵訴訟(現ニ滿側裁判所ニ繼續中ノモノ)上ノ責任折半ヲ承諾スルモ(ロ)一九一七年三月ヨリ一九二四年五月迄ノ北鐵業務ニ關聯スル訴訟上ノ責任ヲ負ハス(ハ)(イ)ノ折半同意ハ讓渡協定ニ依ル支拂ハ「ソ」聯邦ヲ相手トスル裁判上行政上其ノ他ノ請求ノ對象トナリ得サルコトヲ絕對條件トスル旨申出來リタル處日滿側ハ(イ)及(ロ)ニ付テハ同意ヲ與ヘ(ハ)ニ付テハ北鐵協定ニ基ク現金拂ニ付テハ問題ナカルヘキモ商品拂ニ付テハ日本ノ法權ニ服スル通商代表部カ取引ヲナスモノナレハ斯ル約束ヲ爲シ得ス但シ第三者ノ請求(例ヘハ舊對露債權請求權ノ如シ)ニシテ通商代表部ノ行爲ニ關係ナキモノハ之ヲ今次ノ取引ニ關聯セシメストノ趣旨ヲ司法省ノ解釋トシテ「ソ」側ニ通告スルコトハ可能ナルヘシト云ヘルニ「ソ」側ハ(ハ)ニ付テハ通商代表部ニ關スル從來ノ日蘇間申合(通商代表部ハ我裁判權ニ服ス)ヲ破ラントスル趣旨ニアラス北鐵協定ニ基ク取引ト雖モ其レ自體ニ關スル紛議起ラハ日本裁判所ノ裁判權ニ服スヘキモ只同代表部ノ一般ノ取引ニ基ク請求其ノ他今度ノ特別取引ニ關係ナキ請求ヲ此特別取引ニ關聯セシメラレサランコトヲ要求スルモノナリト說明セルヲ以テ日滿政府ヨリ秘密公文ヲ以テ讓渡協定ニ基ク支拂(現金及商品拂共)ハ通商代表部ノ商取引ヨリ生シタル事案ナラハ格別然ラサル事案ニ付テハ「ソ」政府ニ於テ應訴セサル限リ裁判上ノ請求ノ目的トナルコトナキモノト解スル旨ヲ司法省解釋トシテ「ソ」側ニ通知スルコトニ同意ヲ與ヘタリ、尙行政上ノ請求ニ付テハ實際上問題起ラサルヘシトノ我方說明ニ滿足シ何等規定セサルコトトナレリ

(二)「ソ」側ノ留保希望財產問題

(イ)在哈爾賓「ソヴィエト」總領事館及館員合宿所(何レモ土地共)ニ付「ソ」政府ハ其ノ所有トシタシト要求セル處外國人ノ土地所有ハ滿洲國法上認メラレサルヲ以テ無償且無期限ニ「ソ」政府ニ貸與スルコトニ妥結

セラレタリ

(ロ)滿側ハ「ソ」側居留民ノ爲在哈爾賓第四學校及病院用建物（哈爾賓「ウサヂバ」第九四九號）ヲ同一目的ニ使用スル限リ無償無期限ニテ貸與スヘク又右學校用トシテ哈爾賓北鐵圖書館藏書中ヨリ滿「ソ」官憲ノ協議選定シタル若干ノ圖書ヲ備付クルニ同意シタリ

(ハ)滿洲里及「ポグラニーチナヤ」ニ於ケル「ソ」側鐵道財産ノ「ソ」側留保ニ對シテハ滿側ニ於テ主義上ノ同意ヲ與フ但現實ニ如何ナル財産ヲ「ソ」側ニ認ムヘキヤハ「ソ」側ヨリ具體的財産目錄ヲ提示セシメタル上ニテ決定セラルヘキモノト爲セリ

(三)商品拂ニ關スル取引確保及紛議解決方法

(イ)「ソ」側ハ商品拂ニ付テハ價格ハ取引所價格、輸出價格ニ依リ之ナキトキハ日本內地値段ニ依リ何レノ場合ニモ他ノ大工業國ニ於ケルヨリ高カラサルヘキコトヲ要求セルカ結局取引所價格輸出價格、卸賣價格等ヲ基準トシ之ナキトキモ公正ナル値段ニテ買得ル樣日滿側ニテ援助スルコトトシ他國品ヨリモ高カラサルヘシトノ要求ハ之ヲ撤回セシメタリ

(ロ)「ソ」通商代表部カ公正ナル値段ニテ商品ヲ買入レ得サルトキ及日滿商社カ商品引渡義務ヲ履行セサルトキ日滿及「ソ」側同數ノ代表ヨリ成ル常設調停委員會ニ附スル件ハ日滿側之ニ同意ヲ與ヘタリ

(ハ)調停委員會ニテ決定シ得サル場合ハ之ヲ兩國ヨリ出ス仲裁者及英米商業會議所ノ選任スル裁判長ヨリ成ル仲裁委員會ノ審議ニ委スヘク其ノ結果「ソ」側ノ主張是認セラレタルトキハ該商品ノ代金ハ現金ニテ「ソ」側受領シ得ルコトトシ度キ旨「ソ」政府ヨリ提案アリ其ノ後我方ノ反對ニ遭ヒ仲裁裁判長ハ英米實業家十名ヲ指定シオキ日滿側ニテ其中ノ一人ヲ選出スルコトトスヘシト代案ヲ提示シ來レルモ我方更ニ反對スルトトモニ調停委員會ニテ解決シ得サリシ問題ハ之ヲ政府間ノ外交交渉ニ移シテ解決ヲ期スル案ヲ提示シ市場ノ狀況ニヨリ商品購入ヲ三年內ニ爲シ得サリシトキハ其ノ後モ購入シ得ヘシト提議セル處「ソ」側ハ協定中ニ國際仲裁條項ヲ挿入スルコトノ必要ヲ撤回シ只商品取引契約中ニ右條項挿入方日滿政府ニ於テ商社ニ「レコメンド」シ「ソ」政府ニ援助スヘキ旨約束アリタシト提議シ同時ニ調停委員會ニ於テ解決セサリシ問題ヲ政府間交渉ニ移スコトニ同意シ且商品ハ三年後モ購入シ得ル案ヲ容レ購入シ得サリシ商品ニ代ヘ現金ヲ受入レ得ヘシトノ案ハ之ヲ撤回セリ

我方ニ於テ商品契約中ニ國際仲裁條項挿入方「レコメンド」スル案ヲモ拒絶シタル結果「ソ」側ハ遂ニ之ヲモ撤回シタリ

(四)支拂保障問題

日本側ノ保障問題ニ付「ソ」側ハ昭和九年十二月二十一日ノ提案ニ於テ日本銀行乃至銀行團ノ保證、滿洲國債券ニ對スル保證ノ形式及銀行團ノ自動的支拂ノ要求ハ何レモ之ヲ撤回（註、單ニ現金拂額中ノ後拂分ニ付滿洲國國庫證書ヲ交付スルコトハ其ノ後滿ニ於テ應諾セリ）シ日本政府ニ於テ「ソ」聯邦ニ對スル一切ノ金錢支拂義務カ正確ニ行ハルルコトニ付保障（「ガランティー」）シ且責任ヲ負フヘキ旨ノ保障公文ヲ日本政府ヨリ受ケ又商品拂ニ關シテハ右ノミニテハ不充分ナル故日本政府ヨリ公文ヲ以テ滿洲國銀行團間ノ金融ニ關スル契約寫ヲ「ソ」政府ニ送付スル際「ソ」側ニ對スル支拂義務ヲ完全ニ履行スル迄日本銀行團ト滿洲國間ノ右契約ヲ廢棄又ハ變更セサルヘキ旨ノ滿側及銀行團側ノ書翰ヲモ添付送付アリタシト要求セルカ其ノ後折衝ノ結果日本政府ハ日滿間特殊緊密ナル關係ニ鑑ミ協定ニ基ク一切ノ支拂（金錢及商品共）ノ規定ノ期間內ニ於ケル滿洲國政府ニヨル正確ナル履行ヲ保障（「ガランティー」）スル旨ノ公文ヲ日本政府ヨリ「ソ」側ニ與フルコトニ合意成立シ商品拂ノ分ノ保障モ右案ニ包含セシメラレタリ但「ソ」側ハ保障ノ意味ハ滿カ期日ニ不拂ノ時日本政府之ニ代リテ支拂フモノナリト解釋スト云ヘルニ付我方ハ萬一不拂ノ時モ決シテ「ソ」側ニ損害ナカラシムル意味ニシテ之カ爲執ルヘキ方法ハ日本政府自ラ決定スルモノナリトテ「ソ」側解釋ヲ拒絶シタル處「ソ」側ハ右解釋ヲ撤回シ其ノ代リ滿ノ支拂履行ニ付困難生シタルトキハ日本政府ハ如何ナル場合且如何ナル條件ノ下ニ於テモ「ソ」政府カ總テノ支拂ヲ完全ニ且條約規定ノ期日ニ受領シ從テ絶對ニ何等ノ損害ヲモ蒙ルコトナカルヘキ樣事情ニ應シ一切ノ必要ナル手段ヲ執ルヘキ旨ノ文句ヲ日本政府ノ保障公文ニ附加アリタキ旨要求シ來レルヲ以テ我方ハ滿ノ支拂ニ付困難生

シタルトキハ日本政府ハ「ソ」政府ニ於テ滿洲國ノ負擔スル一切ノ支拂ヲ完全且協定期間内ニ受領シ從テ何等損害ヲ被ラサル樣凡ユル努力ヲ爲スヘキ旨ヲ通知スルコトニ同意シタリ

次ニ我方ハ保障公文トハ別個ニ日本銀行團ト滿洲國間ノ金融契約寫送付ノ公文ヲ出スコトニ同意シタルカ同公文中ニ支拂義務完了迄右契約ヲ廢棄セサル旨ノ「ソ」側要求ハ之ヲ撤回セシメタリ

尙「ソ」側ハ右通知公文ト保障公文トヲ一括一公文トシタキコト竝滿ト銀行團間ノ契約締結ニ付通商代表部ニモ相談アリタキ旨ヲ要求シ來レルモ我方之ヲ撤回セシメタリ

(五)退職金問題

(イ)「ソ」側ハ(a)退職手當、鐵道ヨリ支拂ハルヘキ其ノ他ノ金額、從業員ノ貯金及其ノ利子、廢疾ニ對スル一時手當ハ即時且完全ニ支拂ヒ(b)貯金ニ對スル鐵道ヨリノ割增金及其ノ利子、恩給（貯蓄會ヨリノ一時恩給及十年通算ノ「キャピタリゼーション」シタル年金共）ハ一ケ年三期ニ分チテ支拂フヘシトナシタルカ其ノ後ノ折衝ニ於テ滿側ハ(a)ニ付テハ退職後二週間以内ニ支拂フコトニ同意シ(b)ノ割賦分ニ付テハ三年五期拂ヲ主張セルカ結局二年四期拂ニテ合意成立シタリ

(ロ)滿側ハ恩給ノ通算ヲ七年トシ現行規則ニヨリ能力檢査ヲ爲シ各人ニ付計算本人ニ支給スル案ヲ主張シ一九三四年三月提示ノ「ソ」側退職金調書ヲ協定濟ト認メスト主張セルニ「ソ」側ハ從來ノ北鐵統計ニ依ル平均數字ヲ基礎トシ且北鐵先例ニ從ヒ十年通算ニテ計算セル右「ソ」側調書ノ恩給金額ヲ一括「ソ」政府ニ渡サレタシト主張シテ讓ラサリシカ結局滿側ヨリ八年半通算ニテ「キャピタリゼーション」ヲ爲シ且十年以上勤續スル限リ能力檢査ヲ省略シ全部恩給ヲ本人又ハ其ノ代理人ニ支拂フヘシトノ妥協案ヲ提示シ之ニ「ソ」側同意シタリ

(ハ)「ソ」側ハ割賦拂セラルヘキ金額ニ付交付セラルヘキ證書（滿側之ヲ交付スルニ同意）ニハ鮮銀ノ保證ヲ附シ且利子ヲ支拂ハレタシト要求セルカ其ノ後ノ折衝ニ依リ鮮銀ノ保證及利子支拂ノ要求ハ之ヲ撤回セリ

(ニ)鐵道宿舍ニ付テハ「ソ」側ハ解雇後二ケ月間即歸國猶



豫期間中「ソ」人ニ留保シタシト要求シ之ニ對シ滿側ハ最初二週間說ヲ主張セルカ結局一ケ月以内ニ明渡サシムルコトトシテ妥決(結カ)シタリ

(六)代償額ノ支拂技術問題

滿側ニ於テハ依然昭和九年十一月十三日及十二月十日附提案ニ依ル現金拂及商品拂ノ方法採擇方ヲ主張セル處「ソ」側ハ右ヲ以テ非實際的非商業的ニシテ且官僚的ナリト爲シ同意セス

(七)北鐵從業員ノ「コーペラチヴ」ノ法律上ノ淸算問題

「ソ」側ヨリ本件「コーペラチヴ」組合淸算ノ爲若干人員ヲ北鐵讓渡後モ一時滿洲國ニ滯在セシメタキ旨ヲ申出タルモ本件ハ追テ協議スルコトトシタリ

(八)北鐵「ソヴィエト」學校授業ヲ北鐵協定調印後三ケ月間繼續問題

「ソ」側ハ本件要求ヲ提示シ來レリ

(九)協定用語

英語トスルコトニ「ソ」側同意ヲ表セリ

(十)起草委員會設置問題

昭和十年二月一日ヨリ條文起草委員會ヲ開催スヘク之ト併行シテ未解決問題ヲモ審議スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

**（付記二）**

昭和十年二月乃至三月ニ於ケル未解決問題ニ關スル西外務書記官「カズロフスキー」委員間折衝、北鐵讓受協定案文起草委員會ニヨル條文作成竝協定署名

西外務省歐亞局第一課長竝「ソ」側「カズロフスキー」及「クズネツォフ」兩委員ヲ以テ組織セル北鐵讓渡協定案文起草委員會ハ昭和十年二月一日成立シ爾來三月九日迄十五回ニ亘リ會合スルト共ニ他方右ト平行シテ未解決問題ニ付テモ西課長「カズロフスキー」委員間ニ折衝ヲ重ネタル結果北鐵讓渡協定及其ノ關係諸文書ハ同年三月十一日滿「ソ」各首席代表及更ニ日本關係ノモノニ付テハ廣田外務大臣モ加ハリ假調印セラレ次テ日滿側ニ於ケル國内手續ヲ了シタル上同月二十三日外務大臣官邸ニ於テ正式調印行ハレタリ

右折衝ニ依ル未解決問題ノ歸結左ノ通

一、商品代金支拂技術ニ付「ソ」側ハ支拂ニ付滿側直接關與セス日本ノ銀行ニ依ル自働的支拂方ヲ固執シタルカ結局

在本邦通商代表部ヨリ滿洲國公使館附財務官ニ契約ノ要項ヲ通知シ財務官ハ其ノ協定條項ニ違反セサルコトヲ確カメタル上七日以内ニ支拂受諾ヲ同部及商人ニ通知ス代金ハ同部ヨリ商品受取ノ通知ヲ受ケタル後財務官カ日本興業銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ商人ニ交付シテ決濟スルコトニ妥決(結カ)シタリ

第二回以後ノ現金拂分ハ國庫證書ニ對シ興業銀行ニ於テ支拂ヲ爲ス

三、商品取引確保問題ニ付テハ「ソ」側ハ日「ソ」間及滿「ソ」間各議定書ヲ以テ夫々規定スヘキ旨主張セルカ結局我方案通日滿「ソ」三國間議定書ヲ以テ規定スルコトニ同意セリ

三、「ソ」側ハ北鐵代償額中ヨリ日滿ニテ購入スル商品ニシテ輸出ノ禁止乃至制限行ハレタル場合ニ於テモ支障ナク之ヲ輸出シ得ル樣セラレタキ旨ヲ要求セル處結局日滿側ヨリ祕密ノ公文ヲ以テ若シ右購入契約スミノ商品ニシテ將來輸出制限ヲ受クルコトトナル如キ場合ニモ右契約カ履行セラルル樣出來得ル限リ援助スヘキ旨ヲ通告スルコトトナレリ

四、「ソ」側ノ留保希望財産問題

(イ)「ソ」側ハ哈爾賓「ソヴィエト」居留民ノ爲滿側ヨリ無償無期限ニテ貸與セラルヘキ學校及病院ニ付テハ未タ居留民團カ未成立ナルコト及居留民團ヨリモ「ソ」總領事館ノ如キ國家機關カヨリ永久的存在ナルコト等ニ鑑ミ右學校及病院ハ右總領事館ニ貸與セラルルコトシ同總領事館ヨリ直ニ「ソヴィエト」居留民團ノ使用管理ニ移スコトト致度シト主張シタルヲ以テ結局滿側ニ於テ之ニ同意シタリ

(ロ)「ソ」側ハ在滿洲里及在「ポグラニーチナヤ」「ソヴィエト」鐵道財産全部ヲ「ソ」側ニ留保スヘキモノナリト主張セルニ對シ滿側ハ現ニ「ソヴィエト」鐵道ニ於テ占有使用中ノモノノミ「ソ」側ノ權利ヲ認ムヘク例ヘハ「ソ」側カ北鐵ニ貸與中ノモノト爲スカ如キ財産ハ時效等ノ關係上「ソ」側ニ權利アルヤ疑ハシキヲ以テ北鐵ニ其儘歸屬スヘキ旨ヲ主張シ「ソ」側ヲシテ之ヲ應諾セシメタリ

五、北鐵貸借ニ關スル追加調書ニ付テハ協定假調印後ノ交渉ニ依リ第一ノ分ハ昭和十年三月十七日現在又第二ノ分ハ



同月二十日現在ニテ作成哈爾賓ヨリ電報シ協定ニ附屬セシムルコトトナレリ但發表セス

六、「ソ」側ハ北鐵協定署名直前ニ至リ北鐵貸借ニ關スル追加調書ニ其ノ明細表ヲ添附シ現地ニ於ケル滿「ソ」各北鐵代表ニ於テ之ニ共同署名ヲ爲シタキ旨ヲ提議セルモ滿側ニ於テハ其ノ審査時日ナキヲ理由トシテ之ヲ拒絶シ單ニ參考トシテ右明細表ヲ現地ニ於ケル北鐵滿側代表ニ於テ受領スルコトトナレリ（本件ハ東鄕歐亞局長ヨリ在本邦「ライヴイト」「ソ」大使館參事官ニ申入レ次テ在哈爾賓日「ソ」兩總領事ニ於テ協議決定セリ）

七、北鐵「ソヴィエト」學校ノ教育竝學校ニ對スル補助金ヲ協定署名後三月間繼續アリタシトノ「ソ」側要求ニ付テハ滿側之ヲ承諾

八、鐵道連絡協定ト同樣北鐵讓渡協定署名後速ニ北鐵電信線ト「ソ」側電信線間ノ電信連絡協定ヲ締結シタシトノ滿側主張ヲ「ソ」側同意シ且右協定締結ニ至ル迄ハ現狀維持トスルコトニモ同意セリ（尙電話ハ現ニ連絡ナク又北鐵ニ關係ナシトテ電話連絡協定締結ノ件ハ「ソ」側不同意）

九、「ソ」側要求ニ基キ北鐵從業員「コーペラチヴ」ノ清算ノ爲若干人員ヲ右清算事務終了迄滿洲國ニ滯在方許可スルコトニ滿側ニ於テ同意セリ

十、又「ソ」側ハ三月十一日假調印ノ日ニ至リ一九二四年五月三十一日乃至一九三四年十二月二十日ノ北鐵業務ニ基キ生セル對北鐵訴訟ノ表ヲ讓渡協定ニ添附スヘキコトヲ要求シ來レル處結局三月二十二日ニ至リ滿側ニ於テ之ニ同意ヲ與ヘタリ

十一、滿側ハ協定中ノ一條項トシテ北鐵ニ關スル一切ノ條約、協定、取極又ハ其ノ當該條項ハ協定署名ト同時ニ無效トナルヘキコトヲ規定スヘシト主張セルカ「ソ」側ハ自己ノ北鐵ニ於ケル一切ノ權利ヲ滿側ニ讓ルモノナルコト及右條文ハ「ソ」政府ヲ政治的ニ困難ナラシムルモノナルコト等ヲ理由トシテ滿側要求ヲ撤回アリタキ旨固執シタルヲ以テ滿側ハ右條項案ノ趣旨ハ自明ノ理ナレハ別ニ協定中ニ何等記載シオカサルモ同一效果アルモノナリト聲明シテ之ヲ協定中ニ存置スルノ要求ヲ撤回セリ

十二、滿側ハ北鐵協定署名ト同時ニ解職セラルヘキ「ソ」側幹部ノ範圍ハ北鐵中央部ノ科長級以上竝ニ地方ノ鐵道管區

長、驛長、機關庫長及各附帶事業主任者（以上二百五十名）トスヘキ旨ヲ主張シタルニ對シ「ソ」側ハ十數名ノ最高幹部ノミトシタシト答ヘタルカ結局協定署名ト同時ニ解職セラルヘキ幹部ハ科長級以上トシ只地方ノ鐵道管區長、驛長、機關庫長及各附帶事業（學校及「クラブ」ヲ除ク）主任者ハ幹部ニ準スルモノトシテ何時ニテモ解雇シ得ルコトトナレリ

尙顧問トシテ一ケ月間北鐵ニ殘ル幹部ハ「ルードイ」管理局長竝同管理局總務、財務及省務ノ各處長ノ五名ニ決定セリ

十三、尙「ソ」側ハ通商代表部ノ本件商品購入取引ニ對シ課稅ヲ免除アリタキコト、軍用品及軍需品（「ソ」側ニ於テ購入スヘカラサルモノ）ノ表ヲ作成シ協定ニ添附スヘキコト等ヲ要求セルカ結局何レモ之ヲ撤回セリ

**（付記三）**

第六十七議會ニ於ケル北鐵讓受協定成立ニ關スル廣田外務大臣ノ報告演說

昭和十年三月二十四日衆議院ニ於ケル廣田外務大臣ノ報告演說左ノ通

今回北滿鐵道讓渡交渉カ成立致シマシタノテ、此機會ニ其經過ノ大體ヲ御報告申上ケタイト思ヒマス、御承知ノ通リニ此鐵道交渉ハ、過去約二十一箇月ヲ要シタノテアリマシテ、其間幾多ノ曲折ヲ經マシタカ、幸ニ昨二十三日ヲ以チマシテ、滿洲國ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ讓渡ニ關スル協定及附屬ノ文書ニ調印ヲ致シマシタ、又帝國政府ト致シマシテハ、曩ニ此交渉ニ仲介幹旋（斡カ）ノ勞ヲ執リマシタ關係ト、滿洲國トノ特別ノ關係ニ鑑ミマシテ、此協定ノ實施ニ付キマシテ圓滿ヲ期スル爲ニ、又此關係國トノ間ニ或ル約束ヲ致シタノテアリマス

此滿洲ニ於ケル東支鐵道ト云フモノハ、曩ニ帝政露西亞ノ時代ニ於キマシテハ、其極東政策ノ實施ノ根幹ト相成ツテ居タノテアリマシテ、之ニ依リマシテ帝政露國ハ南北滿洲ニ對シ屢々侵略的ノ行動ヲ敢テシタノテアリマス、其結果ト致シマシテ、日本トノ間ニモ戰爭カ起リマシテ、其末寬城子以南ノ鐵道ハ日本ニ讓渡スルコトニ相成ツタノテアリマス、又世界大戰ノ末期ニ相成リマシテ、露西亞ニ革命カ起リ、其間ニ一時此鐵道ハ聯合國ノ共同





管理ノ下ニアツタコトモアツタノテアリマスカ、其後ニ至リマシテ、「ソヴイエト」聯邦ト北京政府又ハ奉天政府トノ間ニ、此鐵道ニ關スル協定カ新ニ結ハレマシテ、其後ハ純粹ノ商業上ノ機關トシテ、之ヲ經營スルコトニナツテ參ツテ居ツタノテアリマスカ、其間ニ於キマシテモ幾多國際的ノ紛爭ヲ起シタコトカアツタノテアリマス、昭和六年ニ滿洲事件カ起リマシテ、滿洲國ノ獨立ヲ見ルコトト相成ツタノテアリマス、滿洲國政府ニ於キマシテハ、同鐵道ノ名稱ヲ改メマシテ、北滿鐵道ト改稱致シマシテ、「ソヴイエト」聯邦トノ間ニ共同經營ヲ致シテ居ツタノテアリマスカ、ヤハリ此鐵道經營ニ付キマシテ、色々兩國ノ間ニ紛議カ釀スコトカ度々アツタノテアリマス、其結果一時ハ日滿「ソ」三國ノ間ニ、何等カ不安ノ空氣ヲ釀スヤウナ時期モアツタノテアリマス、隨ヒマシテ滿洲國ノ健全ナル發達ノ點カラ申シマシテモ、亦極東ノ平和ノ見地カラ申シマシテモ、此鐵道ヲ何トカ根本的ニ解決スルノ必要ヲ認メマシテ、日本ノ國内ニ於キマシテモ、此鐵道ノ處分方ニ付テ色々盡力シタ人モアツタノテアリマスカ、私ハ當時露西亞ニ在勤致シテ居リマシタ際、ヤハリ同シ必要ヲ感シマシテ、屢々先方ニ此問題ノ根本的解決ノ必要ヲ說イテ居タノテアリマスカ、其後昭和八年ノ五月ニ相成リマシテ、「ソ」聯邦政府ノ方ヨリ正式ニ、此鐵道ヲ日本國又ハ滿洲國ニ讓渡スルコトノ提議ヲ致シテ參ツタノテアリマス、帝國政府ト致シマシテハ、此點ニ關シテ愼重審議ヲ致シマシテ、又滿洲國政府トノ間ニモ十分打合セヲ致シマシタ結果、此鐵道ハ直接利害關係ヲ有ツテ居ル滿洲國ニ於テ買收スルコトヲ適當ト認メマシテ、其意味ノコトヲ「ソ」聯邦政府ニ申込ンタノテアリマスカ、先方モ直チニ之ニ應諾致シマシテ、引續キ今日ニ至ルマテ交渉ヲ致シテ居ツタノテアリマス、此今回ノ決定事項ニ關シマシテハ、大體新聞ニ發表致シテ居ルコトテアリマスカ、其交渉ノ要點ヲ茲ニ御參考マテニ申上ケタイト思フノテアリマス

此鐵道讓渡ノ目的ハ、鐵道及附屬事業其他財産ニ對スル一切ノ權利ヲ、露國ヨリ滿洲國ニ讓渡スルコトニナツテ居ルノテアリマス今茲ニ其主ナル物權ヲ申シ上ゲマスト、第一、此鐵道ノ本線テアリマシテ、此長サハ千七百粁アルノテアリマス、丁度仙臺カラ鹿兒島ニ至ル位ノ距

離テアルト思フノテアリマス、尚ホ其他ニ同シク千五百粁ノ側線ノ部分モアルノテアリマス、之ニ附屬致シマスル機關車、貨車、客車等ノ運轉材料ハ勿論、鐵道附屬ノ各種ノ建築物カアルノテアリマス、其他ニ二千五百粁ニ達スル電信線竝ニ電話及給水設備、及此鐵道ニ附屬致シマスル種々ノ工場、發電所ノ如キモノカアルノテコサイマス、又全ク此鐵道ニハ關係ノナイ森林ト云フモノカ十八萬六千町歩テアルノテアリマス、又炭坑カ一ツ附屬シテ居リマシテ、是ハ札來諾爾、滿洲里方面ニアルノテアリマス、其埋藏ハ三億ト號シテ居ラレルノテアリマス、又其他ニ支那方面ニアリマスル鐵道附屬ノモノモ引繼ヲ致スコトニナツテ居ルノテアリマス、實ハ從來此鐵道ト露西亞側ノ鐵道トノ間ニ、色々機關車、客車等ヲ互ニ流用致シテ居ツタノテアリマシテ、其ノ點ニ付テ各種ノ問題モ起ツタノテアリマスカ今度ハソレヲ一括致シマシテ、現在ノ有ツテ居ル部分ヲ以テ自分ノ權利ヲ滿足シテ、將來ハ他方ニ對シテ何等要求ヲセナイコトニシテ、取極メヲ致シタノテアリマス、此ノ鐵道ノ讓渡代償價格ニ付キマシテハ、當初露西亞側ニ於キマシテハ、二億五千萬金留、日本ノ金ニ致シマスレハ六億二千五百萬圓ヲ提議致シタノテアリマス、之ニ對シマシテ滿洲國ハ五千萬圓ヲ提議シタノテアリマス、斯ル値開キノ非常ニ大ナルモノカアリマシタノテ、交渉カ甚タ停滯致シタノテアリマスカ、幸ニ露西亞ノ方ニ於キマシテモ非常ナ讓歩的態度ヲ執リ、又滿洲國ニ於キマシテモ、非常ニ奮發シテ、結局ノ所、鐵道代金ヲ一億四千萬圓ト致シマシテ、其外ニ從業員ノ退職ニ對シマシテ支拂フ金トシマシテ、約三千萬圓ヲ滿洲國ニ負擔スルコトト相成ツタノテアリマス、又此鐵道ニ付キマシテハ、相當長イ間ノ經營ヲ致シテ居リマシタノテ、之ニ對シマシテ色々債權、債務ノ關係カ附屬致シテ居ルノテアリマス、之ニ對シマシテハ先方ヨリ貸借表ヲ提出致シマシテ、其内容ヲ滿洲國ニ於テ取調ヘマシタ結果、債務額カ債權ヲ超エルコトハナイ、其儘之ヲ滿洲國ニ引受ケテ差支ナイト云フコトヲ認メマシタノテ、斯樣ニ決定致シタノテアリマス、勿論千九百十七年ノ露西亞革命以前ノ當時ノ東支鐵道ニ對シマスル株主、社債權者、其他ノ權利者ノ要求ニ對シマシテハ、總テ「ソ」聯邦政府ニ於テ、其責ニ任スルコトニ相成ツテ



居ルノテアリマス、此代償額ノ支拂方法ニ付キマシテハ、總テ是ハ其代金ノ三分ノ二ハ商品ヲ以テ充テ、後ノ三分ノ一ヲ金テ支拂フ其雙方共三年間ニ支拂フコトニ相成ツテ居リマスカ、此現金ノ中ノ更ニ半分ハ調印ト同時ニ交付スルコトニ取決メテ居リマシテ是ハ昨日既ニ其手續ヲ了シタノテアリマス、現金支拂其他商品支拂ノ實施ノ方法ニ付キマシテハ、現金支拂ノ部分ニ對シマシテハ滿洲國ノ方ヨリ國庫證券ヲ「ソ」聯邦ニ渡シマシテ、期限ノ到來ノ時ニ、ソレヲ日本ノ興業銀行ト引換ヲスルコトニ相成ツテ居ルノテアリマス、品物ノ代金ノ支拂ニ付キマシテハ、「ソヴィエト」聯邦ノ通商代表ニ於キマシテ、滿洲商人又ハ日本商人ノ賣買契約ヲ致シマシタ時ニ、其契約ヲ滿洲國ヨリ日本ニ派遣致シマス財務官ニ於キマシテ調査致シマシテ、適當ト認メマス時ニ、其代金ヲ小切手ヲ以テ直接日本側、或ハ滿洲國側ノ商人ニ支拂フコトニ依リマシテ、露西亞側ニ對スル義務履行ヲ果スコトニ相成ツテ居ルノテアリマス

「ソヴィエト」聯邦ニ於キマシテハ、斯ル値段ヲ以テ此鐵道ヲ讓渡シタコトテアルカラ、將來其金ハ完全ニ受取リタイ、隨テソレニ對シテ日本政府ノ保障ヲ求メタノテアリマス、之ニ對シマシテ日本側ト致シマシテハ、勿論滿洲國トノ緊密ナル關係ニモ鑑ミマシテ、此條約カ將來完全ニ履行サレルコトヲ希望致スノテアリマスカラ、其支拂ノ方法ニ付キマシテハ、後ニ述ヘマス所ノ方法ヲ立テマシテ、滿洲國ヲシテ完全ニ其義務ノ履行ヲセシムルヤウナコトニ致シマシテ、決シテ此支拂ニ付テ露西亞側ニ損失ヲ及ホスヤウナコトハナイト云フコトノ保障ヲ致シタノテアリマス、尚ホ同時ニ滿洲國ト日本トノ間ニ、滿洲國ニ於テハ日本ノ此保障ニ對シ感謝ノ意ヲ表スルト同時ニ、決シテ此支拂ニ付テ日本側ニ面倒ヲ掛ケルヤウナコトハナイト云フコトヲ、互ニ取極メタノテアリマス、御承知ノ通リ滿洲國ハ建國匆々財政ノ事情ニ鑑ミマシテ、其資金ハ總テ日本ノ内地ニ於テ之ヲ調達スルコトニ致シテ、其調達ノ方法ニ付キマシテモ、政府ト致シマシテハ十分ノ助力ヲ致シマシテ、又一方日本ノ銀行團ニ於キマシテモ、滿洲國援助ノ政府ノ方針ト相俟チマシテ、此公債ノ應募ニ對シマシテハ、滿洲國ニ取ツテ出來ルタケ有利ナ條件ヲ與ヘルコトニ相成ツタノテアリマス

其銀行團ハ興業銀行外十二ノ銀行ト、四ツノ信託會社ニ依ツテ組織サレテ居ルノテアリマシテ、是等ノ銀行團ハ一億八千萬圓ニ達スル公債ノ應募ヲ承諾致シタノテアリマス、又公債募集ノ際ニ、市場ノ狀況ニ依リマシテ、滿洲國ニ對シテ不利益ナ事態ノアリマス場合ニハ、特ニ五千萬圓ノ範圍内ヲ以テ前貸金ヲスルト云フ、便利ナ方法モ立テテ呉レタノテアリマス、斯ル資金ノ調達ノ方法モ立ツテ居リマスノテ、此支拂ニ付テハ私ハ何等將來面倒ノ起ルコトハナイト信シテ居ルノテアリマス、又是等ノ義務ノ履行カ完全ニ行ハレテ行クト云フコトカ延テハ日滿「ソ」三國ノ間ノ、良好ナル關係ヲ維持スル上ニ結構ナコトテアルト思フノテアリマス曩ニ申述ヘマシタ通リニ、約一億圓ニ達スル商品ヲ日本及滿洲國ニ於キマシテ買上ケルコトニ相成ツテ居リマスノテ、其ノ取引ヲ出來ルタケ圓滿ニ致シタイト云フ念カラ致シマシテ、此日滿「ソ」三國間ニ一ノ議定書ヲ協定致シマシテ、其ノ取引ノ圓滿ヲ期スルコトニ致シタノテアリマス、併シ或ル場合ニ、値段ノ問題ニ於テ或ハ契約ノ履行ニ於テ、面倒カ起ルヤウナ場合モアルカモ知レマセヌノテ、關係國ノ間ニ委員ヲ出シマシテ、調停委員會ヲ設ケルコトニ致シタノテアリマス、此調停委員會ニ依ツテ、萬一尚且ツ紛議カ解決致シマセヌ場合ニハ、最後的ニハ外交手段ニ依ツテ之ヲ決定スルコトト致シタ次第テアリマス、其他退職金ニ付キマシテハ、實ハ約六千人ノ從業員カ此鐵道カラ離レマシテ、本國ニ引揚ケルコトニ相成リマスルノテ、是等ニ對シマシテハ、從來東支鐵道ニ於ケル退職金ノ規則ニ依ツテ、出來ル丈ケ寛大ナル方法ニ依ツテ、退職金ヲ供給スルコトニ取極メタノテアリマス、尚ホ將來此鐵道ト露西亞側ノ鐵道トノ連絡ノ爲メ、或ハ滿洲ノ電信線ト露西亞側ノ電信線トノ連絡等ニ付テモ協約ヲ致スコトニ相成ツテ居ルノテアリマス

斯ル内容ノ協定カ、昨日ヲ以テ成立ヲ致シマシテ、是マテ露國ノ鐵道テアリマシタモノカ、完全ニ昨日ヲ以テ滿洲國ノ國有鐵道ト相成リマシタ（拍手）既ニ昨日ヲ以テ各地ニ於テ圓滿ニ其引繼ヲ了シタノテアリマス（拍手）尚ホ此鐵道ノ將來ノ經營方ニ付キマシテハ、是マテ滿鐵カ滿洲ニ於ケル鐵道經營ニ對シマシテ、十分ナル經驗ヲ有ツテ居リマスノミナラス、既ニ滿洲國ノ鐵道テアツタモノノ委任經營モ受ケテ居リマスノテ、此北鐵モ滿鐵ヲシテ一括委任經營ヲ致サセルコトニナリマシテ、此契約モ多分昨日ヲ以テ終了致シタコトテアルト思フノテアリマス（拍手）隨ヒマシテ滿洲ニ於ケル總テノ鐵道カ、一元的經營ノ下ニ立ツコトニ相成リマシタノテ（拍手）將來是カ交通ノ便ヲ圖ルノハ勿論、各種ノ産業ノ發展ニ資スルコト、大ナルモノナルカアルテアラウト思フノテアリマス（拍手）此鐵道ハ斯ル事情ニ依リマシテ、滿「ソ」兩國ノ非常ナル和衷協同ノ精神ヲ以テ成立致シタノテアリマス、尚ホ實ハ滿「ソ」兩國ノ間ニ、又ハ日「ソ」兩國ノ間ニ、又ハ（ママ）日「ソ」兩國ノ間ニ、色々ノ重要ナル懸案モ殘ツテ居ルノテアリマスカ、是等ノ懸案モ此鐵道交渉ニ對スル關係國ノ好意ヲ以テ當ツテ參リマシタナラハ、私ハ是カ解決ハ決シテ困難テハナイト信スルノテアリマス（拍手）將來東洋平和ノ爲ニ、日滿「ソ」三國ノ親善關係ヲ增進スルコトノ必要テアルコトハ勿論、此際世界各地ニ於ケル、隨分不安ノ空氣ノアリマス際ニ、東洋方面ニ於テ斯ル平和的ノ現象ヲ現シマシタコトハ、實ニ東洋方面ニ於ケル一ツノ大ナル幸福テアルト思フノテアリマス（拍手）尚ホ將來色々「ソ」聯邦トノ間ニ交渉致シマス場合ニ於キマシテモ、隨分擧國一致ノ後援ヲ煩サナケレハナラヌコトカアルテアラウト思フノテアリマスカ、其節ハ十分ノ御努力御援助ヲ御願致シタイト思フ次第テアリマス

## 189

昭和10年5月27日　広田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛（電報）

### 試掘期限を実質的に五年延長する北樺太石油会社新要求をソ連側外務当局に提示し交渉方訓令

本　省　5月27日前11時発

第九一號

貴電第一三三號ニ關シ

「ソ」側回答ハ我方ノ要望ト著シキ懸隔アルモ「ソ」側カ期限内ニ着手セル試掘井ニ關シテハ其完成ニ至ル迄作業ヲ繼續スルコトヲ認メタルヲ以テ此ノ「ライン」ニテ我方要求ノ實質的貫徹ヲ計ルコト得策ナリト認ムル處會社ニ於テハ今般試掘計畫ノ一部ヲ繰リ上ケ一號井ハ全部來年十二月十四日迄ニ着手シ試掘區二號井ハ昭和十二年乃至十四年

ニ着手スルノ案ヲ作成シ右案ヲ「ソ」側ニ提示ノ上『昭和十一年十二月十四日迄ニ着手（着手ノ意義ニ付テハ會社電參照）セル一號井及其後着手セラルル二號井（試掘區）ハ其完了ニ至ル迄作業ヲ繼續シ得ルコト』ヲ新ニ「ソ」側ニ要求スルコトトセリ

右ノ内一號井ニ關スル點ハ基本旨ニ於テハ「ソ」側モ既ニ略々認メ居レルカ試掘區二號井ニ關スル點ハ元來試掘作業ハ試掘區域ノ鑛業的價値決定ヲ目的トスルモノナル以上一號井ノ結果ニ依リテ右價値ヲ決定スル能ハサル場合ハ當然二號井ヲ掘鑿スルコトニ依リ該區域ノ試掘作業ヲ完了スルヲ得ルモノニシテ即チ一號井二號井ハ連續セル作業ト見做ス可キモノナリトノ建前ヨリ出發スルモノナリ

即チ本件新要求ハ試掘期限內ニ試掘ニ着手シタル試掘區域ニ付テハ其試掘事業ヲ完成セシメヨト云フニアリテ形式的ニハ期限延長ノ要求ヲ固執セサルコトトナリタルカ實質的ニハ試掘期限五ケ年延長ノ要求ト同一ノ結果トナルモノナリ

就テハ貴使ハ小宅ト連絡ヲトリ會社ノ新要求ヲ「ソ」側外務當局ニ提示シ其ノ斡旋方ヲ要望セラレタル上右要求貫徹ニ付御盡力アリタシ

(一)今回提出ノ試掘計畫ハ飽迄計畫トシテ提示スルモノニシテ計畫中

一號井ノ成功ニ依リ二號井ノ着手後日ニ延期セラレ或ハ一號井ノ決定的不成功ノ爲該區域放棄セラルル等ノコトアルヘク從テ計畫表中ノ坑井全部ニ付計畫通リノ作業實施ノ義務ヲ負フ意ニ非ス

(二)殊ニ一號井七ケノ中四ケハ所謂面積狹少區域トシテ未タ懸案ニ屬スル區域ニ存スルヲ以テ先ツ右區域問題モ併セ解決スルノ要アリ

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

**190**　昭和10年6月4日　広田外務大臣 在本邦ユレネフソ連邦大使 会談

## 試掘権延長問題および国境侵犯問題等に関する会談

昭和一〇、六、四

廣田大臣**ユレネフ**大使會談要錄

六月四日**ユレネフ**大使廣田大臣ヲ來訪シ暫ク御無沙汰申シタルニ付御伺セリトテ日**ソ**間ノ諸問題北支ノ事態蘭領印度トノ交渉等ニ付二、三質問應答ノ後辭去セリ





大臣ヨリ日**ソ**關係ニ付漁業問題ハ莫斯科ニ於テ交渉中ナルコト御交渉（承知カ）知ノ通ニシテ日本政府ノ方針モ確タルコトハ次ノ閣議ニテ決定ヲ見ルコトトナルヘク又北樺太油田試掘期間延長ノ問題モ莫斯科ニ於テ交渉セラレ居ル筈ナリト述ヘタルニ

大使ハ漁業交渉ノ經過ニ付テハ大体承知シ居レリ本件ノ圓滿進捗ヲ希望ス尙試掘期間延長ノ問題ハ**ソ**側ニ於テ讓歩シ二ケ年延長スルコトニ同意シタレハ會社ノ方モ大部樂ニナリタルコトト思考スト答ヘ大臣ヨリ當業者トシテハ二年ハ短カ過キルニ依リ五年ニ延長サレタシトノ希望アリ尤モ此ノ問題ハ理論ニ非スシテ技術ニ關スル實際問題ナレハ莫斯科ニテ交渉スルコト可然ト述ヘタルニ

大使ハ問題ハ利權本部ニテ決定スルモノナレハ御説ノ通ナリ本使トシテハ出來ルタケノ盡力ヲナセリ尙序ニ御伺シタキカ過般國境侵犯問題ニ付申入レタルコトアル處未タ御返事ヲ戴カサルカ其ノ後如何ニナリ居レリヤト尋ネタルニ付

大臣ハ本件ハ其ノ當時陸軍ニ移牒シ置キタルカ其ノ後双方ニ於テ逮捕セルモノヲ互ニ交換引渡ヲナシタリトノコトニ了解ス從テ本件ハ事實問題トシテ解決シタルニ非サルカト答ヘタルニ

大使ハ交換ノコトハ何等承知セス尤モ問題ノ重點ハ斯ル事件カ今後繰返サレサルコトニアル處其ノ點如何ニ御考ナリヤト述ヘタルニ依リ

大臣ハ起ラサル樣互ニ努ムルカ當然ナリ今回ハ双方ニ事件アリタルニ依リ交換引渡ヲ行ヒタル次第ナリ確カ本件ハ互ニ發表セサルコトトシテ取運ヒタル樣ニ承知シ居レリ尙日**ソ**間ニ解決シタル問題トシテハ蘇炳文事件ノ際日本人カ蘇聯邦經由引上ケタル際ノ經費ノ支拂問題アリ其ノ金ハ何レ東京ニテ支拂フコトトナルヘシ（此ノ時**ソ**大使語ヲハサミ確カ十萬留カ其レ以上支拂ハルルコトトナリタリトノコトナラスヤト述フ）其額ハ二十萬圓ナリト云ヘルニ

大使ハ斯ル問題ナリトモ解決セルコトハ**ソ**聯邦ニ好印象ヲ與フヘシ最近新聞ニテ拜見スル所ニ依レハ閣下ニハ通商局擴張問題、支那問題ヲ中心トシテ御多忙ノ樣ニ察セラルト述ヘタルニ依リ

大臣ハ北支ノ問題ハ陸軍之ニ當リ居レリ實ハ支那側ニ匪賊ヲ煽動シ熱河ノ秩序ヲ攪亂スル者アリ又親日家ヲ暗殺スル等ノコトアルニヨリ軍側ヨリ陰謀家ヲ處置シカカル不安ヲ

除キ再ヒ安全地帯トナス様要求シ居ルモノナル處本件ハ支那側ニ於テモ愼重考慮ヲ拂ヒ居ル様ナレハ遠カラス解決スルモノト思考スト答ヘ蘭領印度トノ交渉經過ニ付テハ先達**ハルト**氏來朝ノ節直接大筋ヲ話合ヒ目下其ニ基キテ彼ノ地ニ於テ交渉中ナルモ之ハ本交渉ノ準備ト云フ程度ノモノナリト述ヘ置キタリ

**191** 昭和10年6月6日 在満州国南(次郎)大使より広田外務大臣宛

**北満鉄道譲渡代金一部の商品払い関係のソ連側調査が我が方重要資源生産に関する偵知にも及ぶ危険性につき関東軍より注意喚起について**

公機密第一〇一四號 (6月11日接受)

昭和十年六月六日

在滿洲國
特命全權大使 南 次郎[印]

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年六月六日附
合機密第七八五號 在滿各公館長宛往信寫送付

件 名

一、日滿重要資源生産機關等ノ內容秘匿ニ關スル件

合機密第七八五號

昭和十年六月六日

在滿洲國
特命全權大使 南 次郎

日滿重要資源生産機關等ノ內容秘匿ニ關スル件

蘇側ハ最近北鐵讓渡ノ代金決濟ニ對スル物資購入ニ乘出シ來レルカ其ノ行動モスレハ殊更ニ日滿重要資源生産ノ偵知ニ亘ルヤノ虞アルニ付特ニ此點ニ留意シ本件ニ關シ遺漏ナキ樣セラレ度キ旨別册寫添付ノ上關東軍參謀部ヨリ照會有之タルニ付右可然御取計相成度此段申進ス

本信送付先、在滿各公館長

本信寫送付先、外務大臣

「奉機大出」常第二八號

蘇聯通商代表ト大連商工會議所關係者トノ會見內容ニ就テノ件報告



昭和十年五月十八日

奉天陸軍特務機關
大連出張所長 堤 不夾貴

一、駐哈蘇聯總領署商業顧問、駐滿國外貿易人民委員會代表「マクス、エムヂン」ハ駐日「ソヴエート」聯邦通商代表部大連支部、支部長「エル、カガン」並大連支部勤務通譯大橋昌治ヲ帶同ノ上五月七日大連商工會議所ニ對シ北鐵讓渡代金決濟ニ對スル物資購入ニ關シ調査打合セヲナス必要アリトシ在連商工關係者ノ會同方申入レタルヲ以テ會議所ニ於テ關係業者名簿ヲ提出シタル結果代表側ニ於テ左記「メンバー」ヲ「チエツク」シ會談方ヲ懇請セリ

左 記

五月八日懇談會出席者 於大連「ヤマトホテル」

日本側主催

蘇聯側 在哈通商代表 「エムヂン」
在大連通商部主任 「カガン」
大連駐在蘇聯領事 「ゴルブツオフ」
通 譯 大 橋 昌 治

日本側

東拓 木村 惟
昌光硝子 牧浦 愛司
滿洲製麻 井上 輝夫
大連窯業 木下 忍立
南滿硝子 齋藤 鋧
大連油脂 安田 文雄
瓜谷商店 石塚 眞太郎
小野田「セメント」 西田 英雄
日清製油 本田 兵一
三菱商事 中谷 芳邦
三井物産 井上 知博
大連機械 森川 莊吉
大連商議商業部長 古澤 丈作
同 書記長 長永 義正

二、右代表ノ目的ハ關東州ニ於テ調達シ得ヘキ資料及廉價ニシテ合理的ニ調辨シ得ル程度等ヲ廣ク調査シ之ヲ東京ニ於ケル代表部ニ報告スルニ過キスシテ直接商議ヲ纏ムヘキ任務ハ有セサルモノト解セラレ且又右代表ノ主トシテ調査ヲ希望スル品目ハ「セメント」鹽ナリトノ豫想ニヨ

リ大連商工會議所ハ彼等調査ノ主目的ノ品種ニ鑑ミ極メテ愼重ノ態度ヲ取リ當出張所ニ對シ之カ取扱方ニ關シ指示ヲ仰キ來レルヲ以テ當所ニ於テハ取敢ヘス体能クアシライ具体的問題ニ觸レサルト共ニ彼等ノ情況ヲ内査スル如ク指導シ同時ニ軍司令部ニ至急指示方電請セル次第ナリ

三、五月八日晝前掲關係者ト蘇聯代表トノ「ヤマトホテル」ニ於ケル會見ニ於テハ蘇聯側ハ州内産業状況特ニ産出品種、製産能力就中「セメント」等ニ就キ相當深ク質問シタルモ極メテ曖昧ノ返答ヲ與ヘタルニ過キサリキ

尚會見後個々人ニ對シ執拗質問シタルモ之亦要領能クアシライ數量ニ就テハ具体的返答ヲ與ヘス爲ニ一種ノ社交的會談ニ終レリ

蘇聯側ハ八日ノ返禮ノ意味ニテ九日午後四時ヨリ「ヤマトホテル」ニ於テ茶話會ヲ催シタルモ之亦社交的談話以外ニ亘ラサリキ

蘇代表ノ言ニ依レハ資材ハ凡テ浦鹽渡ヲ計畫希望シ居レリ

四、蘇聯側ハ以上ノ外左記業者ト各別ニ會談商議シ「エムヂン」ハ十二日發「あじあ」ニテ北上セリ

兩者商議ノ内容並觀測左ノ如シ

1.大連油脂工業トノ會見ニ於テハ五月ヨリ八月迄四ケ月間毎月一、〇〇〇噸ノ豆油（石鹸材料ナリト稱セリ）ヲ又日清製油トハ五月中一、二〇〇噸ノ豆油購入ノ下相談ヲナシ在東京蘇聯代表部ノ訓令ヲ仰キ一週間以内ニ確答ヲ約セリ

尚「エムヂン」ハ商談中日本及滿洲國ノ製品ニシテ日本國ニテ希望シ且官署ノ許可セルモノノミヲ購入スヘシトノ前提ノ下ニ製品種別製産能力等ニ就テハ相當深刻ナル質問ヲ試ミ之ヲ探究セント努メタルカ何レモ適當ナル解答ヲ與ヘタル由、二社共商談ノ成立可否ニ就テハ掛引多キヲ以テ早急ノ成立覺束ナシト觀察シ居レリ

2.大連機械製作所森川專務談

七日ノ會見ニ於テ出席者カ小範圍ナルニ不審ヲ懷ケリ

（欄外記入）

右ハ蘇聯代表側カ最初選擢セルモノナリトノコトナルカ進和商會ノ如キ今日市中一流ノモノニテ曾テ蘇聯製品ヲ取引シ現在鐵道用具其他鐵製品ヲ營業シ居ルニ拘





ハラス選ニ洩レ居タルハ不思議ナリ十一日通商代表部ニテ私的面談ノ希望申込アリタル故會見シタル所蘇聯邦ハ重ニ陸海軍用品船舶用品、海陸交通上ノ必要品等缺乏シ居ル故此種製品ヲ購入シタシト云ヒ我工場ニ如何ナル種類ノ製品アリヤトノ質問アリ之ニ對シ鐵道用具其他概略ノ製品科目ヲ説明シタルトコロ、電氣裝置鐵道用信號機及鐵管等ニ多大ノ興味ヲ持チ其他航空標識等ノ購入希望ヲ洩シ製産能力等ニ付キ質問セルモ詳細ナル回答ヲ與ヘス却ツテ蘇聯側ニテ要スル數量又ハ價格ノ點ニ付キ質問シタルニ「目下一部代表カ東京ニアル故取極メ難シ」ト答ヘサリキ

3.大橋昌治通譯談

鹽並「セメント」ニ關スル商談ニ就キ如何ナル結果ニナルヤヲ案シ居タルカ「鹽ハ目下關東州内ニ於テ消費サレ殆ント海外輸出ノ過剰ナシ又「セメント」モ同樣海外ニ輸出スル程度ノ製産能力ナシ」トノコトニテ問題トナラス終レリ、結局何等商議纒リタルモノナキモ目下ノトコロ有望視サルルハ日清製油ノ豆油及三菱取扱ノ特産物ナランカ

4.三菱商事ハ中谷支店長自ラ陣頭ニ立チ相當色氣ヲ示セルカ九日午後六時「エムヂン」等ヲ湖月ニ招シ交歡スルトコロアリ

5.大連駐在通商部主任「エル、カガン」外二名ハ過般來大連市商會（滿人側商議機關）ヲ介シ滿人側ニ大豆、豆油、食鹽、繭綢等ノ價格ノ問合セヲ行ヒタリ

但シ現在ノトコロ商談成立ノ見込無シ、尚繭綢（柞蠶絲織物）ハ一萬五千疋ヲ購入希望ナリト稱セル由

6.座談會前後在東京丸ノ内三菱二一號館内獨逸系機械會社「フリード、リツヒクルツク」會社員獨逸人「エルワイン、フオンコツホ」及同會社員高不二郎カ大連ノ進和商會工場及大連機械製作會社等ニ至リ參考ノ爲ト稱シ工場ヲ訪レ内部ニ就キ種々調査セントセル事實アルカ或ハ蘇聯側ト何等カ連絡アルモノニアラスヤト觀測セラレ注意中ナリ

（欄外記入）
常套手段ナリ

**192**

昭和10年6月11日　在上海石射(猪太郎)総領事より広田外務大臣宛

**第七回コミンテルン大会開催の見込みに関する報道もあるが六月中の開催はほとんど不可能であるとの観測について**

機密第七二九號　（6月17日接受）

昭和十年六月十一日

在上海

總領事　石射　猪太郎〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

第三國際第七次世界大會開催期ニ關スル件

本件ニ關シテハ既報ノ如ク第三國際第七次世界大會ハ一九三四年後半期ニ於テ「モスコー」ニ召集スル旨決定セラレタル處同年九月ニ至リ第三國際執行委員會ハ更ニ之ヲ延期シテ一九三五年前半期中ニ召集スルコトニ決定シタル情報アリ注意中ノ處最近當地發行ノ漢字紙上海報？(小報)ニ英國新聞通信員ノ通信トシテ「共産國際第七次大會ハ六月下旬「モスコー」ニ開催セラルル筈ニテ各國共産黨代表ハ續々集合シツツアリ參加代表ハ「ソ」聯邦及外國共産黨員一千名ノ豫定ニシテ既ニ倫敦ヨリ三十二名、南「アフリカ」ヨリ三名、濠洲ヨリ三名、米國ヨリ十三名、瑞典ヨリ二十五名、「パリー」ヨリ四十名到着セリ。尚ホ「オランダ」「ベルギー」「スイス」「チエツコスロヴアキヤ」等ノ各代表ハ參加ノ途ニアリト、本大會ニ於ケル主要問題ハ「戰爭ト革命ノ第二期中ニ於ケル國際各支部ノ工作要綱並組織規定ノ改正ニ依ル黨工作ノ再建方策」ニシテ「ソヴイエト、ロシア」ノ國聯加入ニ伴フ國際客觀情勢ノ變化ニ對スル工作ノ變更ヲ主トシテ討議スルモノナリ」ト報道セラレタル旨諜者ヨリ報告アリタル處現下ノ情勢ヨリ觀テ右大會カ果シテ六月中ニ開催セラルルヤ否ヤハ直ニ信ヲ置キ難ク卽チ第三國際ノ世界大會ハ二年毎ニ一回召集サレ全般的方策ノ討議決定ヲ爲ス規程ナルカ一九二八年八月ノ第六次大會以後今日迄約七年間之ヲ召集セス而モ今日ニ於ケル世界ノ政治經濟情勢ハ第三國際ノ世界大會ヲ必要トスル程度ニ於テ一九一九年乃至一九二二年當時ニ比シ決シテ劣ラサルモノノ如ク又一面「ソ」聯邦内ハ現在ノ處兎ニ角統一セラレ居リ大會出席代表カ「ソ」聯領内ニ於テハ生命ノ危險ヲ感スルカ如キコト無キ狀況ナルニモ拘ラス世界大會カ召集セラルルニ至ラス延期ニ延期ヲ重ネ居レルハ卽チ現在各國共産黨ノ全面的敗北ト且ツ第三國際ノ民族化―ロシア化ニ因ルモノニシテ目下ノ處第七次大會ノ六月中ニ開催ハ殆ント不可能事ナリト觀測セラル。

尚中國共産黨ノ第七次全國代表大會モ第三國際第七次世界大會ト同時期ニ開催セントスル計畫アリ曩ニハ本年五月一日「モスコー」ニ於テ第七次世界大會直後開催スルヤノ情報モアリタル處目下ノ中共黨内情況ニ依リ無期延期ニ決定セル模様ナリ。

右御參考迄報告ス

本信寫送付先　在華大使　北平　在滿大使
天津　濟南　青島　漢口　南京　福州　廣東
厦門　重慶　香港　哈爾賓　間島　吉林　奉天
關東局

**193**

昭和10年7月1日　在間島永井(清)総領事より広田外務大臣宛

**極東での日本側によるソ連関係情報蒐集に対する防備を訴えたモロトフのウラジオストクにおける演説について**

公機密第六二七號　（7月5日接受）

昭和十年七月一日

在間島

總領事　永井　清〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

昭和十年七月一日機密第八〇〇號寫送付

在滿大使宛

一、蘇聯人民委員長ム、モロトフノ演説ニ關スル件

機密第八〇〇號

昭和十年七月一日

在間島

總領事　永井　清

在滿洲國

特命全權大使　南　次郎殿

蘇聯人民委員長ム、モロトフノ演説ニ關スル件

馬滴達分署長報告要旨

本件左記ノ通報告申進ス

記

蘇聯人民委員「ソヴエツト」會長ム、モロトフハ四月十五日浦塩ニ來リ翌日同地ニ滞在中ナリシ陸海軍總長ウオロシノヴト共ニ「ストルナンスカヤウルイチヤ」軍政事務室ニ各師團長及軍事委員長ヲ召集特別秘密會議ヲ開催シ四月十七日同地「ブルロチンスカヤウルイチヤ」公會堂ニ於テ浦潮各團体代表者等ヲ集メ大要左ノ如キ演説ヲナシタリ

我等無産革命群衆ハ光輝アル「セ、セ、セ、ル」議會國家ノ爲奪闘（ママ）シヨウ

滿洲ニ駐屯スル日本軍ハ哈爾賓ニ關東軍調査班ヲ設置シ多クノ金額ヲ費シテ我カ議會國家内ニ反蘇運動ヲ釀成セシメント活動シ居レルカ我政府ハ對日滿諜報機關ノ活躍ニ依リ日本軍ノ行動ハ掌中ニアル如ク詳知シ得ラルヲ以テ之ニ對スル防備策ハ萬全ヲ期シツヽアリ我等無産者同胞等ノ最大ノ任務ハ議會國家内ヨリ反蘇者ヲ殲滅シ日本ノ連絡者ノ調査ニ任スル事ニアルカ現在極東一帯ニハ多数日本連絡者カ潜入シ祖國ニ不利ナル情報蒐集ニ努メ居レリ各機關ト民衆トハ密接ニ連絡シ二十年間維持シ來レル議會國家ノ爲メ特ニ此点ニ留意シ一群衆ノ行動ト雖モ等閑ニ附スヘカラス

以上

本信寫送付先

外務大臣、吉林、奉天、哈爾賓、新京各總領事
關東憲兵隊司令官、延吉獨立守備歩兵第七大隊長
延吉憲兵隊長、朝鮮總督、咸北知事
管下一般

## 194

昭和10年7月15日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛（電報）

**第七回コミンテルン大会は七月下旬から八月下旬まで開催の見込みであるが採択されるテーゼは比較的穏健な内容となるとの観測について**

モスクワ　7月15日前発
本　省　7月15日前着

第三二四號

共産「インターナショナル」第七回世界大會（第六回ハ七年前）ノ開催ハ客秋以來延期ヲ重ネ來レル處各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ

㈠最近佛、英、米等ヨリ共産黨員相當多數ニ來莫シ（獨逸、



墺太利、日本、支那代表其ノ他當國ニ在留スル者モアリ）第七回大會開催ニ關スル共産「インター」政治書記局（「スターリン」「モロトフ」等八名）ノ會議ハ本月上旬ニ終リ目下幹部會（各國代表者ヲ包含スル筈ナルカ今回ハ約十八名）開催中ニテ執行委員會（約一百名）ハ本月下旬ニ總會卽チ世界大會（約八百名）ハ八月下旬頃ニ夫々開催ヲ見ルヘキ模様ニテ

㈡今次ノ來會者ハ何レモ比較的穏健分子ニシテ採決セラルヘキ「テーゼ」モ僅ニ「フアツシズム」排撃帝國主義戰爭ノ危險及社會主義ノ祖國蘇聯邦ノ國内建設ノ政綱ニ關スルモノニ限ラレ世界革命ノ如キ字句ヲ避ケ蘇聯邦「プロレタリアート」ノ政綱ハ各國ニ於ケル「プロレタリアート」ニ好個ノ模範ヲ示スモノナリト云フカ如キ字句ノ採用ヲ見ルヘシトノコトナリ同大會カ近ク開催セラルヘキハ共産「インター」機關雜誌「コンムニチエスキー、インテルナチヨナル」七月號ニ「第七回世界大會ヲ迎フルニ當リ」ナル社説掲載セラレ居ル點等ヨリ見テ確實ナルヤニ認メラル共産「インター」本部ノ所在地ニ付英國及白耳義各代表ハ「スターリン」ノ意ヲ受ケ目下倫敦又ハ「アントワープ」ニ移轉方策動中ナリトモ傳ヘラレ更ニ又「フアシズム」ノ排撃ヲ呼號スルト共ニ蘇聯憲法ヲ改正シ以テ「フアシスト」ノ蘇聯邦攻撃ヲ緩和スルコトモ考慮セラレ居リ從テ近ク改正ノ豫定ナル蘇聯邦憲法ハ所謂「デモクラシー」ヲ基調トセル穏便ノモノナルヘシト觀測スル者モアリ

在歐洲各大使ヘ暗送シ米ヘ轉電セリ

## 195

昭和10年7月22日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛（電報）

**第七回コミンテルン大会の主要討議事項は共産主義インターナショナルの戦術変更問題であり一国社会主義を適用することにあるとの情報について**

モスクワ　7月22日後発
本　省　7月23日前着

第三四四號

往電第三二四號ニ關シ

其ノ後ノ情報ニ依レハ十六日ヨリ開催セラレタル共産「インター」組織局會議ニ引續キ二十一日ヨリ「クレムリン」

內ニ於テ同執行委員會ト共ニ第七回世界大會開カレ目下五十六箇國以上ノ代表約四百名參集シ約一箇月續行ノ豫定ナリ今次大會ニ於ケル主要事項ハ共產「インター」ノ戰術變更問題ニシテ「蘇聯邦擁護」ト共ニ各國ハ國際主義ニ依ラス各自其ノ資本主義發達ノ程度ニ應シテ社會主義實現ノ目標ニ進ミ從テ當該國ノ國防强化ノ如キハ是認スヘシトノ建前ニ依ルコトトナルヘク之レ所謂一國社會主義ノ適用ナルカ斯ル轉向ハ各國ニ於ケル運動ヲ容易ナラシメ主義上ノ反對無キモノノ如キモ今後蘇聯邦共產黨カ何ノ程度及方法ニ依リ各國共產黨ヲ支持スヘキヤ各國右?黨ハ自力ニ依ル外無キヤノ問題ニ付議論ヲ免レス尤モ致國代表カ大會ニ參加セサルハ蘇聯邦共產黨最近ノ態度ニ慊ラサル爲又佛國代表モ不滿アル由ニテ今ヤ共產「インター」モ數年前ノ蘇聯邦共產黨ト等シク左派ノ反對ニ直面シ居ル實情ナリト云フ

尙現在ノ書記長「マヌイルスキー」ノ代リニ勃牙利出身ノ「デイミトロフ」ヲ以テスルコトトナルヘシトノ說行ハレ居ルノミナラス當地共產「インター」本部建物カ市區改正ノ爲驅テ取壞サルルコトトナレルニ依リ黨員中ニモ建物ト共ニ共產「インター」夫レ自身モ「何處へ行クカ」ノ運命ニアリト取沙汰スルモノアリト云ヒ又當國檢閱官カ「クレムリン」ニ於テ大會ノ開カレ居ルコト及「スターリン」カ之ニ出席スルコトニ付テハ發電ヲ差止メタリ等ノ事情ハ對外關係ヲ顧慮シ共產「インター」ヲ如何ニセンカニ付苦心行ハレ居ルコトヲ反（映）スルモノト認メラル

在歐米各大使へ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

**196**　昭和10年7月24日　在ペトロパウロフスク尾形(昭二)領事より広田外務大臣宛

**カムチャッカ東岸における我が方漁業者に対するソ連官憲による良好な対処振りについて**

（8月8日接受）

機密公第一九號

昭和十年七月二十四日

在ペトロパウロフスク

領事　尾形　昭二［印］

外務大臣　廣田　弘毅殿

東海岸ニ於ケル蘇側官憲ノ態度等ニ關スル件

東海岸各漁場ノ視察ヲ終ヘ本月二十三日「ウスカム」ニ歸來セル多賀谷書記生ノ報告左ノ通

東海岸一帶ニ於ケル諸官憲ノ態度ハ下級漁業官吏二、三名ヲ除キ惣シテ穩健ニシテ當業者ハ大体ニ於テ理解アル取扱ヲ受ケツツアルモノト認ム

從來側面的防碍ヲ事トセル「ゲ・ペ・ウ」カ其ノ態度ヲ一変シテ好意ヲ惜マサル事及漁業官吏並税関吏カ一定方針ニ從ヒテ職権ヲ行使シ措置ノ愼重ヲ期シツツアルハ本年同地方ニ於ケル漁業取締政策上ノ特色トス

漁況ハ東海岸一帶頗ル好調ニシテ過去二年間不漁ヲ續ケタル「ウスカム」漁場ハ沖取々締制ノ效果モ手傳ヒ紅、白共豫想外ノ豐漁ヲ実現シ、又「ウスカム」以北ノ各漁場モ鱒ヲ主トスル空前ノ大漁ニ惠マレツツアリ

右報告ス

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

**197**　昭和10年7月30日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛(電報)

**北樺太石油会社新要求につきこれ以上の延長詮議は困難と認めるが関係官庁と協議するとの外務人民委員代理の回答について**

モスクワ　7月30日前発

本　　省　7月30日前着

第三六〇號

貴電第一五〇號ニ關シ

在當地會社代表小宅トモ聯絡ノ上會社側ノ主張ヲ支持スル趣旨ノ口上書ヲ作成シ四日館員ヲシテ外務部係官ニ手交ノ上事情ヲ說明セシメ置キタルカ會社側ノ申請ハ一應却下セラレタルヲ以テ更ニ兒玉ハ當方ト協議ノ上再申請ヲ爲セル處御訓令ノ次第モアリタルニ付二十九日本使ニ於テ「ストモニヤコフ」往訪ノ際會社側ノ要望ヲ支持シ曩ニ蘇側カ二年間ノ延長ヲ認メタル態度ニ今一歩ヲ進メ會社ノ希望ニ副ハレ度キ旨懇談ヲ重ネタル處先方ハ會社ノ作業ハ露國又ハ米國等ニ於ケル同一事業ニ比シ甚シク緩漫ニテ故意ニ之ヲ遲延セシメ居ルモノナルヤノ觀モアリ又日本側ハ資金難ヲ訴ヘラルルモ政府ニ於テ支出方考慮ノ途モアルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ其ノ所說ニ對シ夫々反駁ヲ加ヘ且我カ要望ノ合理的ナル旨ヲ反覆說明セル結果先方ハ既ニ容認セル二年延長ニテ充分ナリト信スル次第ニテ此ノ上ノ延長詮議ハ甚タ困難ト認ムルモ折角御來話ノ次第アリタルニ付尙

一應關係官廳ト協議スルコトニ取計フヘシト答ヘタリ
「オハ」ヘ轉電セリ

**198** 昭和10年7月31日 在ソ連邦太田大使より 広田外務大臣宛(電報)

**日ソが開戦に至らない原因は日本における共産主義活動家の活動およびソ連の平和政策にあるとのコミンテルン大会における日本代表演説について**

モスクワ 7月31日後発
本 省 8月1日前着

第三六二號

二十八日「コミンテルン」大會ニ於テ日本代表岡野コト野坂三(參三カ)次ガ爲シタル演説三十日發表セラレタルカ其ノ要領ハ日本帝國主義カ蘇聯及外蒙ニ接セル支那ノ諸省ヲ占領セルハ對蘇戰爭ノ準備ナルカ未タ戰爭ニ至ラサルハ日本ニ於ケル「プロ」ノ活動ト蘇聯ノ赤軍及平和政策ニ依ル、現在日本ノ勞農民ハ戰時的「インフレ」ノ爲極メテ苦境ニアリ罷業モ增加セルカ黨目下ノ緊急問題ハ職業組合及愛國氣分ノ勞働者ヲ統一スルニアリ尤モ黨自体ニ多數派ト稱スル右傾的分派アリ大ニ結束ヲ固ムル要アリトテ黨ノ內訌ヲ縷述セル平凡ナルモノナリ

**199** 昭和10年8月13日 在満州里後藤(安嗣)領事代理より 在満州国南大使宛

**在ハルビン総領事館員にして在満州ソ連共産党幹部が共産主義運動のため南中国に派遣されるとの諜報者よりの情報について**

機密第三六四號
昭和十年八月十三日

在滿洲里
領事代理 後藤 安嗣

在滿洲國
特命全權大使 南 次郎殿

「ソ」聯共產黨員ノ中國派遣說ニ關スル件

本件ニ關シ國鐵列車乘務ノ哈市在住白系露人從業員ヨリ諜者ノ聞知セル處ニ依レハ在哈爾賓「ソ」總領事館員「**ゴンチャルスキー**」ハ在滿共產黨幹部ニシテ「ソ」聯赤化工作ノ指導者ナルカ今般在滿「ソ」聯共產黨員中ヨリ赤軍軍事





教育修得者二十名ヲ選ヒ南支那共產運動ノ工作員トシテ南支ニ之ヲ派遣ス可ク目下極秘裏ニ準備ヲ進メ種々畫策シアルカ右派遣員ハ遂(逐カ)次病氣ヲ装ヒ保養ノ名目ニテ先ス北支ノ青島芝罘等ニ赴キ該地ニ於テ在支中國黨員等ト連絡ノ上各自ノ目的地ニ赴カントスル計畫ナリト

而シテ右策謀ノ指導者タル「**ゴンチャルスキー**」ハ總領事秘書ナル旨公稱セラレアルモ事實ハ極東軍々事委員ニシテ北滿ニ於ケル「ソ」側ノ軍事方面ノ責任者トシテ該方面ノ指導ヲ爲シツ、アリ軍事關係ノ事項ニ關シテハ凡テヲ掌握シアル有力者ニシテ赤軍航空中佐ノ前歴ヲ有スル者ナリ

右御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣
新京 哈爾賓 齊々哈爾 綏芬河
海拉爾 黑河

**200** 昭和10年8月17日 広田外務大臣 在本邦ユレネフソ連邦大使 会談

**国境委員会問題、試掘権延長問題および漁業問題に関する会談**

八月十七日廣田大臣ト「ユレネフ」大使トノ會談要領

大使 國境委員會ニ關スル「ソ」側案ヲ持參シタルカ同案ノ內容ヲ概述スレハ左ノ如シ

國境ヲ區ニ分チ各區ニ兩當事國ヨリ代表各一名ヲ又必要アラハ其ノ代理ヲ任命ス

紛爭發生シタルトキハ兩代表相會シテ之ヲ審議ス、會議ハ交互ニ兩當事國ノ地ニ於テス

會議ニ於テ合意成立セサルトキハ之ヲ外交手續ニ移ス又一方カ自己ノ意見ニヨリ之ヲ外交手續ニ移スコトヲ得、會議ニハ代表ノ外書記通譯ヲ出席セシム場合ニヨリテハ代表代理ヲ又必要アラハ委任ヲ受ケタル技術者ヲ出席セシム、會議ハ紛爭ノ發生シタル地ノ代表者之ヲ指導ス、會議ノ模樣ノ新聞發表ハ双方ノ合意ニ依ル、本案ハ千九百三十三年「ソヴィエト」波蘭國境委員會ニヨリタルモノナリ

大臣 國境不分明ノ點ニ付テハ如何ナリ居ルヤ

大使

國境ハ分明シ居レリ

大臣

條約ノ根據ニ因ルモノナリヤ

大使

國境ハ一八六〇年北京條約ニヨリ其ノ地圖モアリテ確定シ居レリ

大臣

國境ニ付テハ支那時代ヨリ紛爭アリタルカ紛爭ハ同案ニヨリ決セラルルコトトナリ居ルヤ

大使

事件ノ發生ヲ解決スルコトニ話合アリタルモ國境ノ解決ニ付テニアラス

大臣

此案ヲ早速研究シ滿洲國ヘモ送リテ研究セシムヘシ云々

大臣

北樺太試掘期限延(マヽ)問題未タ決定セラルルニ至ラサルトコロ之ヲ早ク纏ムル樣「モスコー」政府ヘ傳ヘラレタシ

大使

中央利權委員會ニ於テ二年間延長ノコトニ決シタリトノコトナリ

大臣

會社側五年試掘案ニ付此際「ソ」側ノ仝意ヲ取付ケサレバ會社トシテハ事業ニ着手スル能ハサルナリ

大使

大臣ノ御希望ヲ「モスコー」ニ傳フヘシ

大臣

漁業條約改訂商議ハ遲々トシテ進マス日本側ハ甚タ之ヲ遺憾トシ居レルカ我方ノ要求ハ實際的ニシテ双方能ク其ノ狀況ヲ承知シ居レルニ依リ早速交渉ヲ進メシメラレタシ

大使

日本案ノ要望ハ到底「ソ」側ニ於テ容認シ難キモノナリ日本側ハ「ソ」側ノ一方的讓歩ヲ求メラルルモソハ不可能ナリ

大臣

我方案其ノモノハ讓歩案ニシテ新シキ要求ナシ唯現在ノ



狀態ヲ安定セントスルニアルノミニシテ双方ノ便宜トナルコトナリ若シ日本カ此上讓歩セハ日本ノミ損スルコトトナルヘシ

大使

日本案ハ幾多ノ要望ヲ爲シ居リ何等ノ讓歩ヲ爲シ居ラス交渉ハ協同ノ精神ニ依ラサルヘカラス

大臣

我方案ハ從來ノ條約カ紛爭ノ原因ナリシニ依リ其ノ原因ヲ除去セントスルニアリ若シ之ヲ除去セサルニ於テハ交渉ハ纏ルコトナシ「ソ」側ハ五年間漁區安定ヲ認ムルモ右ハ五年後ノ將來ニ紛爭ノ原因ヲ遺スコトトナル我方案ハ之ヲ全然除去セントスルニアリ例ヘハ漁區競賣ノ廢止又ハ留換算率ノ排除ノ如キ之レナリ

大使

紛爭ノ原因ハ常ニ見出スコトヲ得ヘシ双方カ審議ヲ爲スニハ紛爭ヲ除クニアラスシテ双方ヲ滿足セシムル方法ヲ見出スニアリ絶對的ニ紛爭ヲ除クコトハ不可能ナリ

大臣

我方ハ條約ニ付紛爭ノ原因トナル點ヲ除クニアリ今ハ丁度條約改正ノ時期ニ際シ居レルニ依リ若シ必要アラハ條約ヲ變更スルモ可ナリ併シ條約中缺點ノミヲ改ムルヲ以テ實際的トス日本案ハ新シキ要求ヲ爲シ居ラス

大使

私ハ本質的ニ何等加ヘテ言フヘキモノナシ條約ハ改善ヲ要スルカ日本案ハ日本側ニノミ都合ヨク改善ヲ要求シ居レリ

大臣

日本側ニ都合ヨキ要求トハ誤解ナリ双方ニトリ都合ヨキ案ナリ「ソ」側ハ更ニ一層ヨキ案アラハ之ヲ出サレテ可ナリ

「カズロフスキー」氏ハヨク日本案ノヨキコトヲ知リ居レルモ懸引ヲ爲シ居リ其眞意ヲ語ラス貴大使ヨリ話ヲ進ムル爲其ノ眞意ヲ語ル樣「カズロフスキー」氏ニ傳ヘラレタシ

大使

條約改訂ノ交渉ハ双方ニ懸引アリ得ヘシ北滿鐵路問題ノ如キモ長ク懸引アリテ漸ク解決セラレタリ大臣ノ御趣旨ハ傳フヘキモ「ソ」側ノ希望ハ眞ナル希望ナリ「ソ」側

ハ譲歩ヲ爲セリ須ラク日本側モ譲歩セラルヘシ

大臣　日本側ニ譲歩セヨトハ紛爭ノ原因ヲ殘セト言フコトナリ日本ハ現在ヨリ漁區ヲ餘計ニ取ラントスルニアラス又留ノ換算率ニ依ラサル他ノ方法ニ依ラントスルモノニテ酒匂氏(匂カ)ハ日本案ヲ其儘傳ヘ居レリ

大使　留ニ付テ議論ナカランコトヲ望ム此問題ニ付テハ紛爭起ルヘケレハナリ

大臣　故ニ紛爭ノ起ラサル樣方法ヲ考フルニアリ問題ハ双方ニヨク分リ居ルコトナルニ依リ交渉ヲ早ク進ムル樣「モスコー」ニ傳ヘラレタシ

大使　大臣ノ御希望ヲ傳フヘシ日本側モ日本代表ニ對シ同樣ノ訓令ヲ出サレタシ　云々

**201**　昭和10年8月20日　広田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛(電報)

**北樺太石油会社による新要求承認方を在本邦ソ連邦大使へ申し入れについて**

本　省　8月20日後1時45分発

第一七〇號

八月十七日「ソ」大使來訪ノ際本大臣ヨリ北樺太試掘期限延長問題ハ未ダ解決ヲ見サルガ會社トシテハ「ソ」側ヘ提示セル試掘五年計劃案ニ付仝意ヲ取付ザル以上事業ノ着手モ不可能ナルニ付本件速カニ取纏ムル樣「ソ」政府ニ傳達方申入レタルニ大使ハ之ヲ承諾セリ

**202**　昭和10年9月3日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛(電報)

**第七回コミンテルン大会時の反日演説につき外務人民委員代理への抗議に対し先方より満州国における白系露人保護問題に関し不快感表明について**

モスクワ　9月3日前発
本　省　9月3日前着

第四三〇號

貴電(1)第一七五號ニ關シ



二日外務人民委員代理「ストモニヤコフ」ヲ往訪ノ上今回「コミンテルン」大會ノ經過ヲ觀ルニ蘇政府ハ同會議ニ於テ岡野、西川、田中其ノ他「エルコリ」、「マヌイルスキー」、「ピーク」、「ドミトロフ」等カ種々日本ヲ誹謗セル反日演說ヲ許シ又大會ハ之ニ基ク決議ヲ爲シ是等ヲ發表セシメタルカ右ニ付テハ大ニ日本朝野ノ感情ヲ刺戟(刺カ)シ一部ニ於テハ日蘇國交ヲ斷絶スヘシト迄論セラルルニ至リ就中日本人主義者ヲシテ斯ル亂暴ナル言辭ヲ弄セシメタル點ハ特ニ日本一般ノ感情ヲ非常ニ刺戟(刺カ)シ居レリ本使トシテハ兩國親交上甚タ困リタルコトト思考シ居レルカ今回本國政府ヨリ本件ニ關シ蘇政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起スヘキ旨電訓ニ接セリトテ强ク先方ノ注意ヲ喚起シ從來蘇側ハ「コミンテルン」カ政府ト關係無キモノナリト主張シ居レルカ斯ノ如キハ言葉ノ遊戯ニ過キス他國カ如何ナル印象ヲ受クルヤニ付須ク政治的且實際的ニ考慮スルヲ要スヘク「コミンテルン」カ如何ナル論議ヲ爲スモ差支無シト爲スカ如キハ國交ノ將來ニ甚シキ支障ヲ與フルモノニアラスヤヲ惧ル此ノ點ニ付蘇政府ハ果シテ如何ナル考ヲ有セラルルヤ又蘇政府ハ將來モ斯ルコトヲ許サルル考ナリヤ承知シタシト述ヘタル處

先方(2)ハ御話ノ次第頗ル意外千萬ナリ日本政府カ「コミンテルン」大會ニ關シ茲ニ苦情（「プレテンジヤ」）ヲ申出テラルヘシトハ豫期セサリキ第一右ハ何等根據無キコトナリ蓋シ蘇政府ハ日本其ノ他ノ政府ニ對シ「コミンテルン」ノ行動ヲ取締リ又ハ是等共產主義者ニ對スル居住ヲ禁止スルノ義務ヲ負擔シタルコト無ケレハナリ蘇政府ハ外國ヨリ亡命ノ革命者ニ對シ庇護ヲ與ヘスト爲スコトヲ得ス右ハ往時各外國ニ於テ吾人革命黨員カ其ノ庇護ヲ受ケタルト同樣ナリ殊ニ庇護權ニ付テハ蘇聯憲法ニ規定アリ從テ蘇政府ハ「コミンテルン」ノ機關ノ存在ヲ許シ居ルモノニシテ右ハ例ヘハ英佛白各國ニ於テ第二「インター」ノ存在ヲ許スト同樣ナリ本官ノ承知スル所ニ依レハ他國ニ於ケル集會及大會ニ於テ演說者カ日本ヲ攻擊シタル事例アルニ拘ラス之ニ對シ未タ日本カ何等カ抗議シタルコトヲ耳ニセス又斯ル會議ヲ許スハ不都合ナリトテ論爭シタル由モ聞カス尙本官ノ驚ヲ禁シ得サル事實アリ卽チ日本官憲ハ常ニ且系統的ニ北京條約第五條ノ違反ヲ爲シ居ルコト之ナリ右ニ對シ蘇側ハ累次抗議ヲ爲シ居ルモノニシテ例ヘハ日本官憲ハ其ノ權力下ノ地域ニ於テ白系露國避難民ノ居住ヲ許スノミナラス（此ノ

點丈ケナレハ北京條約違反トハ言ハスト附言ス）更ニ兩國
國交ニ害ヲ及ホスコト明カナルニ拘ラス自ラ白露避難民ニ
便宜並ニ援助ヲ與ヘ居レリ
現[3]ニ最近滿洲國ニ於テ露國避難民事務局ニ對シ廣ク白露人
ノ之ニ從屬スヘキコトヲ事實ニ於テ要求シ居ル處該事務局
ナルモノハ反蘇鬪爭機關ニシテ明カニ反蘇活動ヲ爲シ居ル
モノナリ本年六月中哈爾賓ニ於テ日本官憲ノ許可ニ基キ南
關東軍司令官ヲ名譽會長トシ安藤哈爾賓特務機關長參加シ
テ露西亞「フアシスト」黨大會開催セラレタルカ其ノ目的
ハ反蘇鬪爭ノ主眼トス右「フアシスト」黨及新聞紙上公然
對蘇秘密破壞運動ヲ爲スヘキヲ主唱シ之カ行動ニ着手ノ必
要ヲ公言シ居レリ右ニ關シ蘇政府ハ廣田外相ノ注意ヲ喚起
シタルニ拘ラス日本官憲ハ蘇滿國境方面ニテ白系露人ノ活
動ヲ許スト云フカ如キ事態ナリ又新聞報道ニ依ルモ白系露
人ノ蘇滿國境附近居住ヲ慫慂スヘシトアリ是等ノ點ニ付蘇
側ヨリ累次注意ヲ喚起シタルニ拘ラス白系露人ニ行政上ノ
職務例ヘハ民警ノ如キ職ヲ與ヘラレ是等白系露人ハ盛ニ其
ノ權力ヲ濫用シ蘇聯人並ニ蘇側代表者等ニ種々復讐的行爲
ヲ爲シ居ル有樣ナリ卽チ最近哈爾賓ニ於テ蘇聯人ニ對シ大
規（模カ）ノ家宅搜索行ハレ中ニハ蘇側ノ公務員例ヘハ滿洲國トノ
鐵道交通聯絡會議ニ赴キタル蘇側代表ノ住宅ニ對シテ搜索
行ハレタルカ其ノ都度右ニハ常ニ白系露人警察官參加シ居
タリ日本官憲ハ更ニ進ンテ白系露人ニ對スル武裝ヲ施シ最
近ニ至リテハ特別軍隊ヲモ組織シ居レリ
是等[4]ハ表面馬賊又ハ「パルチザン」討伐ノ爲ナリト稱スル
モ事實是等白系露人ノ抱持スル感情ニ顧ミレハ日蘇平和ノ
爲危險ナルモノト云フヘシ啻ニ白系露人ノ新聞ノミナラス
日本新聞迄モ連日甚シク反蘇誹謗ヲ行ヒ右ハ正ニ國際常軌
ヲ逸シ蘇側官憲ヲ侮辱シ居レリ殊ニ日本官憲カ其ノ哈爾賓
及新京ニ於ケル國立放送局ヲ白系露人ニ提供シ毎日反蘇宣
傳ヲ放送シ蘇側兵士ニ對シ赤軍ヲ棄テ逃亡スヘキヲ勸誘シ
「テロル」行爲ヲ爲スヘシト指嗾シ居ル有樣ニシテ日本官
憲ハ啻ニ避難民ノ存在ヲ許スノミナラス反蘇行爲ヲ爲シ得
ル樣便宜ヲ計リ居ル實態ニテ這ハ明カニ國際常軌ニ反スル
モノト認メサルヲ得ス日本政府ハ「コミンテルン」大會ニ
於テ數名ノ日本共產黨員又ハ或外國人カ反日言論ヲ爲シタ
リトテ毫モ驚クニ足ラサルヘシト思考ス寧ロ前記ノ如キ日
本側ノ態度コソ國交上危險ナリト言ヒ得ヘシ數名ノ共產黨



員ハ成程演說ハ爲シタルモ敢テ反日戰爭ヲ勸誘シタルニア
ラス又何人モ日本大官ニ付「テロル」行爲ヲ行ヒ又ハ日本
ニ對シ秘密破壞運動ヲ爲スヘシト言ヒタルニアラス此ノ點
「コミンテルン」大會ハ趣ヲ異ニシ居レリ過般本官ハ東京
ヨリノ新聞電報ニ依リ貴使カ大會問題ニ付蘇側ニ抗議ヲ提
出スヘシト聞及ヒ居リシモ余ハ之ヲ信セサリキ
然[5]ルニ本日貴使ヨリ日本政府ノ訓令ニ依リ蘇政府ノ注意ヲ
求メラレタリ依テ本官トシテハ茲ニ日本側ニ對シ前述ノ如
キ事態ニ對シ更ニ一層大ナル注意ヲ拂ハレンコトヲ求ムル
モノナリ蓋シ右ハ國交關係ニ更ニ大ナル害ヲ與フヘキヲ以
テナリ尙本官ハ日本政府ニ對シ斯ル正常ナラサル現象ニ對
シ誠實且友好的ナル注意ヲ拂ハレンコトヲ切望シ此ノ旨日
本政府ニ傳達アランコトヲ請フ旨述ヘタリ依テ本使ハ兩國
關係ノ親善ナランコトヲ欲スルハ勿論日本政府ノ希望スル
コト故唯今貴官ノ言ハレシ滿洲國方面ニ於ケル事柄カ果シ
テ事實ナリトセハ御話ノ如ク言ハルルコトモ一理アルヘキ
モ問題ノ場所ハ滿洲國ニシテ日本ニアラサル點ニ注意ヲ拂
フヲ要スヘシ而シテ一言シ度キハ貴官先程ノ御話ニ依レハ
日本側カ何等カ國際上ノ庇護權ニ付要求シタルヤニ考ヘラ
レタル模樣ナルカ夫ハ論點ヲ誤リ居レリ日本側ハ何等國際
法ニ基ク此ノ種要求ヲ爲シタル次第ニアラス專ラ政治上實
際的方面ヨリ考慮シ問題カ日本ニ取リ如何ニ「インプレス」
サレタルヤヲ述ヘテ蘇政府ノ注意ヲ喚起シタルモノナリ日
本ハ庇護權ヲ否認スルモノニアラス卽チ貴官ハ理論ノ出發
點ヲ異ニシ居レリ尙引續キ貴官ハ日本官憲ノ北京條約第五
條違反ヲ云々セラレタル處本使ハ右ニ關シ何等承知スル所
無シ哈爾賓方面ニ於ケル白系露人ノ居住ヲ許スハ庇護權ヲ
シテ已ムヲ得サルコトナリト思考ス加之滿洲ノコトハ自ラ
日本直接ノ事項ト其ノ性質ヲ異ニスルニ依リ本使ハ右ニ對
シ茲ニ何等說明ヲ與フルノ立場ニアラス
左[6]リ乍ラ御說明ノ如ク日本官憲カ之ヲ行ハシメ居レリト云
フカ如キハ事實ニアラスト思考ス若シ事實トセハ適當ニ注
意ヲ促サルルコト必要ナラン又亡命者ノ居住ニ付テハ日本
人中ノ片山潛カ曾テ當地ニアリ又岡野カ現ニ此ノ地ニ居住
シ居ルト同樣ナラン之ヲ要スルニ本件ノ要點ハ中央政府カ
其ノ存スル場所ニ於テ他國ノ政治及秩序ニ變更ヲ加フルコ
トヲ論議セシムルコトカ果シテ許サルヘキコトナリヤ如何
ニト云フ點ニアリ尙滿洲國ノコトニ付論議セラレタルカ右

ハ蘇側中央部ノ人士カ「コミンテルン」ノ中央委員トナリ居ルコトニ比シ其ノ色彩並ニ重要性ニ於テ自ラ異レルモノアルハ明カナリ日本政府ハ此ノ點ニ向ヒテ貴方ノ注意ヲ喚起シ國交上蘇側ニテ考慮サレンコトヲ求ムルモノニシテ吾人ハ國交親善ニ努力シ度シト思考シ居ルモノナルカ貴方ハ將來モ斯ル行動ヲ許ス考ナリヤ左スレハ益々不快ナル事件ヲ惹起スルニアラスヤト憂フルモノナリト說キタル處先方ハ御話ハ了承セルカ實ハ日本ヨリ貴使ヲ經テ抗議ニ接スルヤノ報道ヲ見タル際本官ハ直ニ調査ヲ開始シ抗議カ果シテ正當ノ根據ヲ有スルヤ否ヤヲ研究シ北京條約第五條ヲモ閲讀セリ然ルニ右ハ毫モ共產「インター」ト關係ナカリキ否却テ右調査中日本側ニ於テ系統的ニ前記條項ニ違反セル行爲アルヲ發見セリ貴使ハ或共產黨員ノ演說ヲ以テ國交上好マシカラス日本ノ一部ニ大ナル刺戟ヲ與ヘタリト言ハレタルカ蘇側カ日本側ノ態度ヲ聞カハ更ニ大ナル惡感ヲ持ツコト當然ナリ

貴使ハ當時滿洲國ノコトニテ直接日本ニ關係無シト言ハレ本官モ此ノ理窟ハ夙ニ承知シ居レリ左リ乍ラ事實上滿洲國ハ完全ニ日本軍ノ手ニ存シ從テ日本政府カ其ノ責任ヲ負フヘキナリ日本官憲及軍ニ於テハ前記ノ理窟ヲ自ラ破ルニ遠慮セサル實狀ニシテ日本官憲ハ日本官憲トシテ活動シ居レリ現ニ過般拘禁セラレタル蘇聯人ノ家宅搜索調書中ニ於テ明カニ「本家宅搜索ハ關東軍ノ指令ニ基キテ之ヲ行フ云々」トアリ卽チ明カニ事實ハ理窟ト異リ更ニ在滿日本官憲並ニ日本領事ハ滿洲國關係ノ事務ニ對シテモ直接蘇側ニ何カト申出ヲ爲シ居ル始末ナルヲ以テ理窟ヲ云々スルコトハ之ニテ止ムヘシ之ヲ要スルニ日本政府ハ在滿官憲ノ行動ニ對シテ責任ヲ負フヘキナリ反蘇行動ヲ爲ス白系露人ニ援助ヲ與フルコトハ蘇側ニ多大ノ反感ヲ與ヘ居ル處「コミンテルン」大會ニテハ何人モ「テロル」又ハ對日秘密攻擊ヲ云々シ居ラサルニアラスヤ之ニ反シ新京放送局ノ放送ハ日本官憲ノ手ニ依リ且該放送局カ日本國立ノモノナルニ照シ到底「コミンテルン」大會ノ演說トハ比較ニナラス庇護權ニ付爭ハストノ貴使ノ言ハ本官之ヲ了承ス同時ニ蘇側トシテモ白系露人ノ滿洲國居住ヲ爭ハサルヘシ但シ「ラヂオ」ヲ經テ赤軍ニ呼掛ケ政府員、蘇側共產黨員等ヲ殺セト云フカ如キハ庇護ノ範圍外ナリト云フヘシ各國政府カ親善關係ニ努力スヘシトスル點ニハ同感ナリ左リ乍ラ日本政府本日ノ申出ハ



決シテ兩國關係ニ良好ナリト思考セス

以下本官一己ノ內話ナルカ何故ニ本日ノ日本側申出カ蘇政府ニ好感ヲ與ヘスト云フカト云フニ右ハ本件申出ノ內容ノミニ依ルニアラスシテ本件カ恰モ米國側ノ例ニ倣ヒテ爲サレタルモノト思ヒ居ルカ故ナリ元來米國政府ハ其ノ國內ノ事情上ヨリシテ過般ノ如キ抗議ヲ爲シ來リタル次第ナルニ日本カ之ニ倣ヒタルコトハ不可ナリト思考ス日本新聞紙ハ右米國抗議ヲ揭載シ吾人亦之ニ倣フヘシト喜ンテ他國ノ眞似ヲ爲シテ蘇聯邦トノ關係ヲ惡化セントシタルモノニシテ今日ノ申出ヲ爲サレタルハ決シテ國交上宜シカラス本問題ニ付日本新聞紙カ種々書立ツルハ國交上不可ナルカ右ニ對シ蘇側新聞紙モ必然蘇側ノ立場ヲ說明スル爲之ヲ報道スルノ必要ニ迫ラルヘク斯テ結果ハ國交上決シテ良好ナリト思考セス此ノ點ハ本官一己ノ考ニ付右御含アリタシト語レルニ依リ本使ハ最後ニ述ヘラレタル點ハ全然事實ト相違ス米國カ抗議セシ故ニ日本カ本日ノ申出ヲ爲スト云フニハアラス米國ハ米國ノ立場ヨリ之ヲ行ヒ日本ハ其ノ獨自ノ立場ニ出テタル次第ニシテ大會ニ依リテ日本側カ如何ナル感ヲ得タルヤト云フ點ヲ貴方ニ傳ヘ以テ貴方ノ注意ヲ喚起スト云フニアリ元來「コミンテルン」ノコトハ本使ニ於テモ常ニ本國ニ報告シ居ル次第ナルカ日本政府ハ日本內部ノ事情ヲ考慮シテ今回本使ニ電訓シ來レルモノナルカ故ニ此ノ點ニ關スル貴官ノ考ヲ訂正サレンコトヲ望ム米國ハ「リトヴイノフ」ノ誓約違反トシテ抗議セルモノナルモ日本ノ場合ハ之ト事情ヲ異ニスル次第ナルニ付誤解無キヲ望ム

次ニ滿洲國ノ放送云々ニ付本使ハ御話ノ事實ヲ疑フモノナリ在滿軍司令官兼大使タル南全權ハ本使今春新京通過莫斯科歸任ノ際本使ニ對シ自分ハ蘇聯トノ平和關係ヲ熱望スルモノニシテ其ノ趣旨ニ依リ夫々出先ニ措置シ居ルカ故ニ此ノ點ハ本使莫斯科歸任ノ上ハ「リトヴイノフ」氏ニ傳フル樣申出アリシヲ以テ歸莫早々右ノ次第「リ」氏ニ傳ヘシコトアリ卽チ事在滿軍中央ニ關スル限リ御話ノ如キ事實有リ得スト思考シ自分トシテハ奇怪ニ思ヒ居レリ又南全權ノ會議云々ニ付テハ之モ篤ト調査セラルルニ於テハ恐ラク何等非難セラルル程ノコトナキカト推セラル之ヲ要スルニ日本政府ノ注意喚起ノ動機ヲ貴官ノ言ノ如ク解セラルルハ全然誤解ナルカ故ニ之ヲ訂正シ事態ヲ率直ニ見テ考慮サレンコトヲ切望スト說キタル處

御話ヲ了承シ篤ト理解セリ唯放送ノ件ハ遺憾乍ラ事實疑ナシ右ハ毎日行ハレ居リ最甚シキ反蘇聯的宣傳ヲ爲シ居リ右ニ付テハ詳細ナル資料ヲ有ス南氏ノ言ハ誠ニ結構ナルモ不幸ニシテ彼ノ方面多數ノ日本人ハ其ノ言ヲ守リ之ヲ行ヒ居ラス就テハ本官ノ述ヘシ點ヲ貴使ヨリ南大將ニ通知セラレタシ尚同大將ハ「フアシスト」黨大會名譽會長トナリシモノニテ同大將カ同會議ニ參加シタリト云フニアラスト答ヘタルヲ以テ本使ハ南大將カ大會ニ其ノ名前ヲ出シタルコトヲ以直ニ之ヲ非難スルハ當ラサルヘク篤ト右大會ノ性質ヲ調査セハ自ラ事情判明スヘシ「フアシスト」黨名譽會長タルコト不可ナリトセハ「ムツソリーニ」ニ付テハ如何ト反問シ兎ニ角滿洲國ノコトニ付テハ種々誤傳アルヘキニ付篤ト攻究スル所ナカルヘカラスト告ケタルニ先方ハ蘇側トシテハ篤ト攻究ノ上其ノ不可ナルコトヲ明カニセルモノナリト應酬セリ

在歐各大使（土ヲ除ク）ヘ暗送セリ

## 203　昭和10年9月6日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛（電報）

### タス通信記者への東京における説明振りにつきソ連外務人民委員代理より抗議に対しAP記者へのソ連外務部の説明振りに関し苦情表明について

モスクワ　9月6日前発
本　省　9月6日後発

第四三九號

往電第四三〇號ニ關シ

五日「ストモニヤコフ」ヲ往訪ノ際先方ハ過日貴使ハ「コミンテルン」大會演説ノ件ニ付日本ノ執レル態度ハ米國ノ立場ト異ル旨並ニ日本側ノ申出ハ抗議ニアラスト言ハレタリ然ルニ昨日入手セル東京四日發「タス」電ニ依レハ外務省代表者ハ外國新聞記者ニ對シ「コミンテルン」大會ニ付日本ヨリ蘇聯政府ニ抗議セル處蘇側ハ右抗議ヲ拒否セリ右蘇側ノ回答ハ不滿足ナルニ付閣議ニ報告スヘシ又右外務省代表者ノ意見ニ依レハ蘇聯政府ト「コミンテルン」トノ關係ハ周知ノコトナルニ付今更抗議ヲ繰返スノ必要ナシト述ヘ更ニ別室ニ於テ記者ノ質問ニ對シ莫斯科ハ自己ノ報道ノ到達スル以前ニ外務省ニ情報ノ達スルヲ防止スル目的ニテ在莫斯科日本大使館ノ發電ヲ抑留シ居ル旨語リタル由ナルカ右日本外務省代表者ノ言ハ甚タ不都合ナリ同代表カ抗議ト言フハ不可ニシテ又蘇聯政府カ右抗議ヲ退ケタリト言ヘルニ對シ本官ハ頗ル不平ナリ蘇聯政府ハ故意ニ大使館ノ電報ヲ差押ヘタリトノコトナルカ蘇側ハ本官ノ貴使ト爲セル談話ヲ發表セサリシモノニシテ日本側カ其ノ前ニ斯ル發表ヲ爲スハ不愉快千萬ナリ且ツ又斯ルコトハ兩國關係上許スヘカラサルコトナリ就テハ自分ハ右ニ付大使カ必要ノ措置ヲ執ラレンコトヲ望ム本電報ハ昨夜遅ク入手セルモノニテ未タ政府員ニモ傳ヘ居ラサル處右傳ハレハ必スヤ不愉快ナル感情ヲ與フヘシ

恐ラク政府員ハ自分ヲ非難シ斯ノ如クンハ何故當時「コムミユニケ」ヲ出ササリシヤト謂フナルヘシ大使ハ本件日本政府ノ申出ヲ爲スニ當リ右ハ日蘇關係ノ惡化ヲ避クル爲ナリト述ヘラレタル關係モアリ本官トシテハ當時何等發表ヲ爲ササリシ次第ナルカ日本代表者ノ態度ハ大使ノ態度トノ間ニ差異アリシヲ遺憾トス就テハ深ク注意ヲ喚起サレンコトヲ請フト述ヘタルニ依リ本使ハ右ハ如何ナル事情カ之ヲ承知セサルモ本使ノ爲セシハ抗議ニアラス深甚ナル注意ヲ喚起シタルモノナリ故ニ御話ハ何等カノ誤リナラント思考ス尚右ニ付テハ却テ本使ヨリ苦情ヲ述ヘ度キコトアリ即チ本使ノ得タル情報ニ依レハ米國A、Pノ記者カ當外務部ニ來リシトキ當外務部ハ日本ノ抗議ヲ「リジエクト」シタリト言ヒタル人アリシ由ナリ又外務部ニテ日本ハ「コミンテルン」ニ付申出テ來レルカ蘇側ハ白系露人ノコトヲ述ヘテ日本側ノ注意ヲ喚起シタリト言ヘル由ナリ右電報カ米國ニ傳ハリ米國ヨリ日本ニ達シ斯ル禍ヲ爲セシモノカト思考ス元來問題ハ議論ノ事件ニアラス日本ニ如何ニ「インプレス」シタルヤノ點ニ付蘇側ノ深甚ナル注意ヲ喚起シタルモノニテ抗議又ハ「リジエクト」等ノ點ハ蘇側ニテ記者ニ言ハレタル結果ニアラスヤト思ハレ又米國經由電報ハ我大使館ノ電報ヨリ先ニ東京ニ到達セリト思考スト應酬セルニ

先方ハ外務省代表者カ大使ノ報告ニ基カスシテ斯ル重大ナル言明ヲ爲スヘシトハ思ハレサルニ依リ御話ノ如ク米國記者ノ電報ニ依リシモノトハ信セス尤モ御話ノ點ハ初耳故早速外務部内ニテ取調フヘシ若シ本官カ發表セシ場合ニハ日本官憲ノ白系露人援助「ラヂオ」放送云々ト詳細ニ記載シタルナルヘシ何ノ途此ノ點ハ左シテ重要ナラサルモ重要ナルハ外務省代表ノ抗議拒絶云々並ニ蘇側ノ大使館電報差押

ヲ云々セル侮辱的態度是ナリ蘇側ハ何等發表シ居ラサリシニ付東京ノ注意ヲ喚起セラレ度シト迹ヘタルニ依リ本使ハ事實ヲ承知セサルモA、Pノ電信カ速ニ米國經由日本ニ達シ禍ヲ爲セシモノト察スルニ依リ兎ニ角貴方ニテ調査アリタシト告ケ置ケリ

**204**　昭和10年9月7日

広田外務大臣より
在ソ連邦大田大使宛（電報）

**コミンテルン大会問題への我が方対処振りおよび外務人民委員代理発言の問題点を踏まえソ連側による捏造につき同代理に注意喚起方訓令**

本　省　9月7日後3時10分発

第一八七號

貴電第四三九號ニ關シ

「ス」ニ左ノ事情ヲ申聞ケタル上先方ニ於テ事實ヲ捏造シテ日本側ヲ誣ヒ居ル次第ヲ指摘シ其注意ヲ喚起セラレ度シ

尙當地「タス」通信員ニ就テハ取調ノ上何レ適當ナル處置ヲ爲ス積ナリ

一、貴電第四三〇號會談ニ付テハ二日「モスコー」發聯合其他ハ交渉ノ次第及我方ノ申入レノ一部ヲ傳ヘ三日發聯合ハ全日「ソ」聯外務部ハ右ニ關シ概要別電第一八八號ノ「コムミユニケ」ヲ發表シタル旨ヲ傳ヘ夫々三日夕刊及四日朝刊ニ掲載セラレタリ當地米國新聞記者ハ本社ヨリ二日紐育發三日正午頃當地着ノ電報ニ依リ右交渉ニ關スル照會ノ電報ニ接シタリ

二、貴電第四三〇號中七通ハ三日午后五時迄ニ到着内三通ハ四日午前八時接到セリ

三、三日及四日ノ當方定期新聞記者會見ニ於テ係官ハ右會談ニ關シ質問ヲ受ケタルカ係官ニ於テ話スヘキ材料ヲ有セサリシ爲外國新聞記者ハ失望シ日本新聞記者ハ奮（憤カ）慨シ斯ノ如キ世間ノ注意ヲ惹ケル問題ノ報告カ新聞電報ヨリ一日半モ後ル、ハ貴大使館ノ怠慢ナリ等ト攻撃スルモノモアリシニ付右貴電電報發着ノ時間ヲ知ラセタリ但シ電報遲着ノ原因ニ付テハ何等言及セシコトナシ

四、右ノ次第ニテ日本新聞記者ハ別ニ貴使ノ報告ニ付テ興味ヲ取ラサルニ至リシカ英米記者四名ハ四日午後五時頃係官ヲ來訪シテ質問シタルニヨリ係官ハ二日貴地會談ニ於ケル日「ソ」双方ノ論點ヲ簡單ニ話シタリ然シ之ハ「ニュース」トシテ價値ナカリシト見エ何レモ發電セサリシ由ナリ「タス」通信員トハ會談セシコトナシ

五、貴電第四三九號「ス」ノ談話中左ノ通事實ノ相違アリ

(イ)、四日東京發「タス」ノ外務省代表者談ハ全然事實ニ相違ス例ヘハ係官ハ『抗議』ト云ヒシコトナク警告又ハ注意喚起ト云ヒタリ『閣議ニ報告』云々ハ全然捏造ナリ、『蘇聯政府ト「コムインテルン」トノ關係ハ周知ノコト』トアルハ『兩者ノ關係ニ關スル「ソ」側ノ回答振ハ周知ノコト』ト云ヘルヲ改竄シタルモノナリ又係官ハ貴電遲着ハ「ソ」側ノ抑留ニ依ルト斷言シタルコトナキハ前記ノ通ナリ

(ロ)、「ス」ハ本會談ヲ發表セシコトナシト云ヘルモ「モスコー」發電報ハ逸早ク之ヲ傳ヘ居ルコト前記ノ通ナルガ「モスコー」ノ新聞電報ハ外務省ノ嚴重ナル檢閲ヲ受ケ居ルハ御承知ノ通ナリ

(ハ)、「ス」ハ「コムミユニケ」ヲ出ササリシト云ヘルモ別電（見當ラズ）第一八八號ノ通「ソ」聯外務省ノ「コムミユニケ」（其内ニ「抗議」（protest）ト云ヒ居レリ）カ報道セラレ居レリ

**205**　昭和10年9月9日

在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛（電報）

**コミンテルン大会問題等をめぐる会談につきソ連外務部よりコミュニケ発表の事実なしとの調査結果について**

モスクワ　9月9日後発
本　省　9月10日前着

第四四四號

貴電第一八七號ニ關シ

當方取調ノ結果ニ依レハ外務部ハ本件ニ付「コムミユニケ」ヲ發表セルコト無ク且ツ大形聯合出張員ニ於テモ將又「タス」本社ニ於テモ絶對ニ貴電第一八八號ノ如キ内容ノ電報ヲ發シタルコト無シト主張シ居ル處一方當地外國通信員ノ電報ハ外務部ニテ之ヲ嚴重檢査シ居ルコト事實ナルモ電話ニ依ル通信ハ「コントロール」シ得サル關係ニアリ巴里其ノ他西歐ノ新聞ニハ右電話種ヲ當地特電トシテ掲載シ居ル事例モアリ或ハ是等諸地ヨリ間接ニ得タル情報ヲ莫斯科電

報トシテ聯合カ發表スルコトモ絶無ニアラスト推シ得ル節アリ當方トシテハ蘇側ヘ申入前此ノ點ヲ確メ置ク必要アルニ付右御取調ノ上貴電冒頭所載「タス」通信員取調ノ結果ト共ニ御回電相成度シ

〜〜〜

モ測ラレス尚日本側ハ貴官ノ言ハレタルカ如キ發表ヲ爲セシコトナシ次ニ㈡及㈢ニ付テハ其ノ後關係「タス」電ヲ爲念東京ヘ轉報シ置ケルニ付東京ニテ事ノ眞相判明セルモノト考フルモ

(甲)我方來電ニ依レハ「タス」通信員ハ右㈢ニ關スル發電ヲ全然否認セル由ナルカ此ノ點ハ了解シ難シ

(乙)當地外務部カA、Pヲシテ問題ノ電報（貴電第一八八號ノA、P電ヲ披露ス）ヲ發セシメタル結果東京記者間ニ衝動ヲ起シ日本大使館ノ怠慢問題迄起リ偶々我電報ノ發着時間發表ヲ餘儀無クセシメタルカ右A、P電カ㈢ノ問題ヲ惹起セシモノト認メ前回ノ會談ニ於テ貴官ハ右A、P電ニ付取調方約サレタルカ其ノ後結果如何

(丙)從來我係官カ日蘇親善ノ目的ヲ以テ語レルコトカ往々「タス」ニ依リ反對ノ結果ヲ齎セル事例アル處多數ノ他國通信員ニ於テハ斯ルコトナキニ鑑ミ寧ロ今後「タス」代表トノ會見ヲ避ケ危險ナル機會ヲ作ラサル方適當ナリト考フルニ至レルハ尤モノ次第ナリト思考ス

云々ト語リタル處先方ハ右(甲)ニ付「タス」代表トシテハ引用辭句カ類似ノモノナリトスルモ根本カ異ル爲打電セシコトナシト答ヘタルモノト認ムル旨陳辯シ

(乙)[3]ニ付テハA、P通信員ノ問ニ對シ權限無キ外務部員カ上司ノ許可ヲ得スシテ事實ト考ヘタル點ヲ答ヘタルモノニシテ右部員ニ對シテハ既ニ戒告ヲ與ヘ置ケリ(丙)ニ付テハA、P電ノ如ク日本ヨリ抗議アリタリト爲スコトハ蘇側ニ執リ不利益ナルコト明カナルニ鑑ミ決シテ蘇側カ進ンテA、P通信員ニ告ケタルニアラス此ノ點ハ日本側ニテ了解セラレ度ク又若シ問題ノ「タス」電カ當初東京ヘ轉報セラレ居ルカ又ハ東京ニテ正確ニ取調ヘラレ居リシナランニハ斯ル事件ヲ起ササリシナラント訴ヘ從來日本外務省代表ノ「タス」通信員ニ對スル不平ニ付テハ屢之ヲ耳ニセシモ其ノ都度篤ト取調ノ結果常ニ「タス」代表ヲ非難シ得ヘキ事實ヲ發見セサリシカ「ナギ」ハ常ニ誠實ニ日本ニ關スル情報ヲ傳ヘ居レリ同人ハ頗ル日蘇親善論者ナリ貴使ニ於テ篤ト本件ヲ吟味セラルルナラハ其ノ間種々飜譯等ニ關スル誤解アリタルヲ發見セラルヘク斯ル不正確ナル情報ニ基キ蘇側ヲ責メラレサランコトヲ切望ス本官ハ天羽氏ト知己ナルカ同氏ハ常ニ其ノ態度「コレクト」ナリシニ鑑ミ本件ニ付テモ事情ヲ了解セラルヘク從テ本件ノ圓滿ナル終了ヲ期待





スト結ヘリ此ノ外A、P電中抗議トアル點及我電報發着時間發表ノ點並ニ我諸新聞ノ蘇聯攻擊等ノ點ニ付双方論議ヲ重ネタルカ本使ハ本件「タス」代表ニ對スル今後ノ待遇振ニ付テハ今回ノ會談模樣ニ依リ東京ニ於テ決定セラルヘキコトト考フル旨答ヘ置ケリ

唯惟フニ本件ハ双方ニ於テ種々誤解乃至行違アリ當方カ初メ問題ノ「タス」電ヲ爲念貴方ヘ轉報セサリシコトモ其ノ一ナルカ既ニ事情モ大體判明シ先方モ頻リニ穩便ニ解決方ヲ希望シ居ル次第ナルニ依リ此ノ際「タス」通信員ニ對シ一應今後ヲ注意セラレ從來通ノ待遇ヲ與ヘラルルコトニ御取計アリテハ如何カト存ス

～～～

モスクワ　11月15日後発
本　省　11月16日前着

第五七二號

往電第五六六號ニ關シ[1]

十四日「ストモニヤコフ」ト會見ノ際「アエログラード」ニ言及シ右ハ國交上甚タ面白カラサル映畫ナリト認メラレ殊ニ我通信員ヨリ其ノ上演ニ付本邦ニ打電セル由ニ付必スヤ我國内民衆ヲ刺戟シ居ルコトト憂慮スル次第ニ付蘇側ニ於テ右上演差止ニ付考慮方希望ニ堪ヘスト申入レタル處「ス」ハ右映畫ニ對スル批評ヲ耳ニセルカ格別反日的ノモノト認メラレス假ニ右色彩幾分存スルトスルモ之ヲ日本側ノ行ヒ居ル反蘇宣傳ニ比スレハ問題トナラス數年前日本ニ於テ反蘇映畫上演ノ際蘇聯大使ヨリ注意ヲ喚起シタル處外務省ハ何等回答ヲ與ヘサリシノミナラス引續キ上演セラレタル事例モアリ又日本陸軍省ハ反蘇册子ヲ頒布シ且ツ白系露人ニ援助ヲ與ヘ居リ

[2]最反蘇的ナル「ハルビンスコエ、ウレーミヤ」紙ノ紀念號發刊ノ際ノ如キ安藤特務機關長ハ同紙ノ功績ヲ賞揚シタル有樣ナレハ貴使ハ須ク此ノ種更ニ重大ナル問題ニ注意ヲ拂ハレ度ク假ニ蘇側ニ反日擧措アリトスルモ之ハ全ク日本ノ刺戟ニ基因スルモノニシテ其ノ責任ハ全然貴方ニアルモノト云ハサルヲ得サルト共ニ外務部カ映畫上演禁止ヲ發議スルニ於テハ一般ハ右日本側ノ態度ニ顧ミ外務部カ不當ニ日本側主張ニ聽從スルモノトシテ非難スヘク到底實行不能ナリト逆襲ヲ試ミタリ依テ本使ハ我方ノ反蘇宣傳ヲ云々セラルルモ元來日本ノ反蘇感情ハ蘇側ノ赤化運動ニ基因スルモノナレハ此ノ責任ハ却テ蘇側ニアリトテ先方ノ主張ヲ反駁シタル上徒ニ對立感情ニ依リ兩國關係ヲ激化スルノ不可ナルコトヲ指摘シテ本件ニ關シ蘇政府ノ深甚ナル反省ヲ促シ置キタリ

滿ニ轉電セリ





## 4　その他諸国との外交関係

### 210　昭和10年1月15日　在ブラジル内山（岩太郎）臨時代理大使より広田外務大臣宛（電報）

**ブラジルの現状において我が方より多数の移民を送出するには移民導入を同国の利益に合致させる等機微な工作が必要との意見具申**

リオデジャネイロ　1月15日後発
本　省　1月16日後着

第一一號

貴電第三號ニ關シ

伯剌西爾カ憲法實施後更メテ二八、六二〇人ノ旅券査證ヲ神戸領事ニ訓令シ一九三四年中査證移民ノ本年内入國ヲ許可シ實質上前年度許可數殘リノ殆ト全部本年度持越ヲ認メタルハ客年拙電第二七四號中所謂最大限ノ處置ニテ反對派ヨリ客年拙電第三一五號及本年第二號ノ如ク非難攻擊ヲ受ケタル程明カニ伯國當局ノ誠意アル好意的行爲ト謂ハサルヲ得ス而シテ現在ノ事態ニ於テ最モ肝要ナルハ伯國側ノ此ノ好意的態度ニシテ決シテ理論ノ問題ニ非スト思考セラルル處其ノ後移民委員會ノ模樣ヲ見ルニ勞働省代表ニシテ長年我移民ニ緣故アル「ピネーロ、マシヤード」氏及學者トシテ聲望アル我ニ好意ヲ有スル「ロケツト、ピント」博士カ最初委員ニ任命セラレタル後「バスデメーロ」氏特ニ外務省ヲ代表シテ入リ更ニ最近聖州政府ヲ代表シテ「モラエスアンドラーデ」氏カ會議ニ列スルコトトナリタルハ其ノ顏觸ノミヨリスルモ委員會ノ空氣カ如何ニ我方ニ好轉シツツアルカヲ思ハシメ我方不斷ノ工作モ或ル程度迄酬ヒラレタリト謂ヒ得サルニ非ス（委員會ノ顏觸ハ公表差支無シ）

尙委員會ハ目下移民ノ定義及一二一條補款第六ノ「居着セル同國人」ノ意義等ニ付討議シ居ル模樣ナルカ我國ニ對シテハ兎ニ角本年三月迄移民誘入ノ途開ケ居ルモ他國ニ對シテハ本年初メヨリ「クオータ」ニ依ラサレハ入國困難ナル事情アリ旁昨十四日ノ會議ニ於テ大体勞働省作成案ヲ骨子トシテ採用スルコトニ決定シ恐ラク法律ノ形ヲ取ラス直ニ實施スルニ非スヤト思考セラル其ノ結果ハ日本ハ本年四月一日以後ニ於テ二千八百人ヲ入レ得ル勘定ナルヲ以テ大体三箇月間ハ心配無ク移民ヲ送リ得ルコトトナル而シテ七月以後ノ分ニ對シテハ日本移民ヲ伯國ニ送ルニハ募集ヨリ伯